

大衆部説出世部律『Prātimokṣa-Sūtra』訳註(3)
— 九十二波逸提法(1~50) —

吉澤 秀知

【はじめに】

大衆部説出世部(Mahāsāṃghika-Lokottaravādin)の律蔵文献の一部である「波羅提木叉(Prātimokṣa-Sūtra)」に示される条文は、多くの部分が漢訳『摩訶僧祇律』(大正蔵22, No.1425)、および『摩訶僧祇律大比丘戒本』(大正蔵22, No.1426)の記述と合致した内容である。しかしながら大衆部説出世部律のみに見られる記述や言語的特徴については、他律と比較対照の上で内容を精査し、あらためて検討していく必要がある。

本稿において扱うのは「波逸提法」(『摩訶僧祇律』では「波夜提法」と表記)としてまとめられる92項目の条文である。波逸提法には雑多な内容の規定が記述されている。波羅夷法と僧残法は僧団追放や謹慎などの重罪に関する規定であることに対して、捨墮法や波逸提法はより実際的な僧団内における比丘達の行動規範を規定するものと言える。

本稿は、吉澤[2019][2020]の戒序・四波羅夷法・十三僧残法・二不定法・三十捨墮法に続くものであり、サンスクリットテキストを示しつつ、その和訳および註釈を提示する。

■波逸提法の配列 戒序・波羅夷法・僧残法・不定法・捨墮法までの各律の条文と異なり、波逸提法では条文数と配列には大きな違いが見られる。何故このような配列になっているのかは、解明に至っていない。波逸提法では条文に対する記憶の便を図るためか、10条ごとにまとめて撰頌(uddāna)を列挙し、1つの集(varga)としている。

平川[1994][1995]において波逸提法の各条文について整理され、パーリ律の順番に基づいて漢訳律などとの比較による配列表が提示されている。本稿では、大衆部説出世部律を基準としてパーリ律、説一切有部律、根本説一切有部律に範囲を限定し、各条文の配列を示しておくことにする。

摩訶僧祇律	Ma-L	P	Sa	Mū
1. 妄語戒	1	1	1	1
2. 種類形相語戒	2	2	2	2
3. 両舌戒	3	3	3	3
4. 発諍戒	4	63	4	4

5. 与女說法戒	5	7	5	5
6. 未具同誦戒	6	4	6	6
7. 寔得道戒	7	8	7	8
8. 說龜罪戒	8	9	8	7
9. 羯磨後還遮戒	9	81	9	9
10. 輕呵戒	10	72	10	10
11. 壞生種戒	11	11	11	11
12. 異語惱他戒	12	12	13	13
13. 嫌責戒	13	13	12	12
14. 露敷僧物戒	14	14	14	14
15. 覆処敷僧物戒	15	15	15	15
16. 牽出房戒	16	17	16	16
17. 強敷坐戒	17	16	17	17
18. 閣上尖脚牀坐戒	18	18	18	18
19. 用蟲水戒	19	20	19	19
20. 覆屋過限戒	20	19	20	20
21. 不差教尼戒	21	21	21	21
22. 教誡尼至日没戒	22	22	22	22
23. 不白往尼精舍戒	23	23	—	—
24. 譏教尼人戒	24	24	23	23
25. 與尼屏処坐戒	25	30	29	29
26. 與尼期行戒	26	27	24	26
27. 與尼同船戒	27	28	25	27
28. 與尼衣戒	28	25	27	25
29. 與尼作衣戒	29	26	26	24
30. 食尼讚歎食戒	30	29	30	30
31. 食過受戒	31	31	32	32
32. 処々食戒	32	33	31	31
33. 不作殘食法食戒	33	35	34	34
34. 勸足食戒	34	36	35	35
35. 不受食戒	35	40	39	39
36. 非時食戒	36	37	37	37
37. 停食食戒	37	38	38	38
38. 食過受戒	38	34	33	33
39. 索美食戒	39	39	40	40
40. 別衆食戒	40	32	36	36
41. 露地燃火戒	41	56	52	52
42. 未具同宿戒	42	5	53	54

43. 與欲後悔戒	43	79	54	53
44. 瞋恚驅出聚樂戒	44	42	51	51
45. 惡見違諫戒	45	68	55	55
46. 隨擧比丘戒	46	69	56	56
47. 隨擯沙弥戒	47	70	57	57
48. 不染壞著新衣戒	48	58	59	58
49. 捉宝戒	49	84	58	59
50. 半月洗浴戒	50	57	60	60

【テキストおよび略号】

Tatia 校訂本 (= PrMoSū(Ma-L)T; pp.19-25) を底本とする。また、大衆部説出世部律の内容理解のために、パーリ律、およびサンスクリット語の説一切有部律、根本説一切有部律の異説を提示する。

[Sanskrit Text]

- PrMoSū(Ma-L)P Pachow, W. and Mishra, R. 1956. *The Prātimokṣasūtra of the Mahāsāṅghikās critically edited for the first time from palm-leaf manuscripts found in Tibet*. Ganganatha Jha Research Institute, Allahabad.
- PrMoSū(Ma-L)T Tatia, Nathmal. 1976. *Prātimokṣa-sūtra of the Lokottaravādi-mahāsāṅghika School*. Tibetan Sanskrit Works Series 16, K. P. Jayaswal Research Institute, Patna.

[その他の資料]

- PrMoSū(Ma)K Karashima, Seishi. 2013. “Fragments of a Manuscript of the Prātimokṣasūtra of the Mahāsāṅghika-(Lokottara)vādins (2)” *Annual Report of the International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University* 16: 47-90.
- PrMoSū(Mū)B Banerjee, Anukul Chandra. 1977. “Prātimokṣasūtra of the Mūlasarvāstivādins.” in *Two Buddhist Vinaya Texts in Sanskrit: Prātimokṣa-sūtra and Bhikṣukarmavākya*. The World Press Private Limited, Calcutta.
- PrMoSū(Mū)HvH Hinüber, Haiyan Hu-von. 2003. *Prātimokṣasūtra der Mūlasarvāstivādin, Das Bhikṣu-Prātimokṣasūtra der Mūlasarvāstivādin: Zusammenfassung: anhand der Sanskrit-Handschriften aus Tibet und Gilgit sowie unter Berücksichtigung der tibetischen und chinesischen Übersetzungen kritisch herausgegeben*. Freiburg Universität. (https://www.academia.edu/42899060/_2003_2014_Bhikṣu-Prātimokṣasūtra_der_Mūlasarvāstivādin <アクセス 2020/12/11>)
- PrMoSū(Mū)LC Chandra, Lokesh. 1960. “Unpublished Fragment of the Prāti-

- mokṣa-Sūtra.” *Wiener Zeitschrift für die Kunde des Morgenlandes* 4: 1-13.
 PrMoSū(P) edited by Pruitt, William, translated by Norman, K. R. 2003. *The Pātimokkha*. PTS, Oxford.
 PrMoSū(Sa) Simson, Georg von. 2000. *Prātimokṣasūtra der Sarvāstivādins*. Teil 2, Sanskrittexte aus den Turfanfunden 11, Göttingen.
 『摩訶僧祇律』 大正新脩大藏經 22 卷 No. 1425.
 『摩訶僧祇律大比丘戒本』 大正新脩大藏經 22 卷 No. 1426.

凡例および略号については以下の通り。

- ①本文中の見出し、偈頌の番号等の数字は Tatia による。
- ②翻訳中に語句等を補った箇所は [] で示した。
- ③意味の説明、および原語を補った箇所は () で示した。
- ④その他、本文にない見出しなどについては【 】で示した。
- ⑤本文中では、以下の略号を使用した。

add. =added in.

BhīV Roth, Gustav. 2005. *Bhikṣuṇī-Vinaya, Including Bhikṣuṇī-prakīrṇaka and a summary of the Bhikṣu-prakīrṇaka of the Ārya-mahāsāṃghika-lokottaravādin*. 2nd ed., Tibetan Sanskrit Works Series 12, K. P. Jayaswal Research Institute, Patna.

BHSG, BHSD Edgerton, Franklin. 1953. *Buddhist Hybrid Sanskrit Grammar and Dictionary*. Vol. 1: Grammar, Vol. 2: Dictionary, New Haven.

CDIAL Turner, R. L. 1999. *A Comparative Dictionary of the Indo-Aryan Languages*. Motilal Banarsidass Pub., Delhi, First Indian Edition.

CPD begun by Trenckner, V., ed. Andersen, D. et al. 1924-. *A Critical Pali Dictionary*. Copenhagen.

DBMT Upasak, C. S. 1975. *Dictionary of Early Buddhist Monastic Terms*. Bharati Prakashan, Varanasi.

DN Davids, T. W. Rhys, and Charpentier, J. E. 1890-1911. *The Dīgha-Nikāya*. 3 vols., PTS, London.

DPL Childers, R. C. 1987. *A Dictionary of the Pali Language*. Rinsen Books. (Reprint by Trübner, London, 1875)

MW Williams, M. Monier. 1979 *A Sanskrit-English Dictionary*. Oxford. (Reprinted by Meicho Fukyukai, 1986)

om. = omitted.

NPED Cone, Margaret . 2001, 2010. *A Dictionary of Pāli*. Part 1: a-k, Part 2: g-n, PTS, Oxford.

PED Davids, T. W. Rhys. 1995. *Pali-English Dictionary*. PTS, London.

Vin Oldenberg, H. 1879-1883. *The Vinaya Piṭaka*. 5 vols., PTS, London.

【訳註】

[V. dvānavatī śuddhapācattikā dharmāḥ.]

【V. 九十二波逸提法】

ime kho punar āyuṣmanto dvānavatiṃ śuddhapācattikā dharmā anvardhamāsaṃ
sūtre prātimokṣe uddeśam āgacchanti —

実にまた、尊者達よ、この 92 の清浄なる波逸提法*1が半月毎に波羅提木叉のストラの中で誦出される。

【1. 妄語戒】*2

(1) saṃprajānamṛṣāvāde¹⁾ pācattikaṃ²⁾ /

1) PrMoSū(P): Sampajānamusāvāde, PrMoSū(Sa): saṃprajānamṛṣāvādāt, PrMoSū(Mū): saṃprajānan mṛṣāvādāt. 2) PrMoSū(P): pācittiyam, PrMoSū(Sa): pātayantikā, PrMoSū(Mū): pāyantikā.

意図的な偽りの言葉（妄語）である場合に、波逸提である。

【2. 種類形相語戒】*3

(2) omṛṣyavāde¹⁾ pācattikaṃ /

1) PrMoSū(P): omasavāde, PrMoSū(Sa): apakarṣavādāt, PrMoSū(Mū): ūnamanuṣyavādāt.

軽蔑する言葉*4である場合に、波逸提である。

*1 pācittikā. 一般的に「波逸提」と呼ばれ、「懺悔を課せられる罪」とする。『摩訶僧祇律』では「波夜提」と漢訳され、原語は pācittika である。この原語の表記は諸律において様々であり、パーリ律では pācittiyā, 説一切有部は pātayantikā, 根本説一切有部では pāyantikā / pāyantikā とあり、平川 [1993:3-34] においてもさまざまに議論されているが、決定的な語形については不明である。

*2 T1426:552a18: 若比丘。知而故妄語波夜提。cf. T1425:325a01.

*3 T1426:552a19: 若比丘。種類形相語波夜提。cf. T1425:325b28-29.

*4 omṛṣya. NPED (s.v. omasa). 平川 [1994:66-68] は、PED に omasa の語が収録されていないことから、動詞の語根から検討を行い、omṛṣyavāda について mṛṣāvāda (妄語) と同義であろうとしている。しかし、前項において mṛṣāvāda に言及があり、本項には omṛṣya / P. omasa として別の語が使用されていることから、別の訳を示すべきであろう。『摩訶僧祇律』では「種類毀皆有七事。種姓業相貌病罪罵結使。種姓者 (325b29-c01)」、およびパーリ律の経分別 (Vin 4, p.6) では「omasavādo nāma: dasahi ākārehi omasati: jātiyāpi nāmenapi gottenapi kammenapi sippenapi ābādhēnapi lūṅgenapi kilesenapi āpattiyāpi akkosenapi (omasavāda とは、10 種によって誹謗することである — 生まれ、名前、種姓、行為、技能、疾病、性別、欲望、罪、悪口である)」と説明する。また、PrMoSū(Sa) では apakarṣavādāt, PrMoSū(Mū) では ūnamanuṣya の語が使われることから「欠陥のある者」の意味が想定される。これらのことから、omṛṣya の語は、動詞前綴「o/ava」の意味をふまえて「様々な属性・特性のものに対して自分を上位に置いて相手を見下す、軽蔑する」という意味内容を持つと推察する。

【3. 両舌戒】*5

(3) bhikṣupaiśunye¹) pācattikaṃ /

1) PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): bhikṣupaiśunyāt.

比丘を中傷する [言葉である] 場合に、波逸提である。

【4. 発諍戒】*6

(4) yo puna bhikṣur jānaṃ^(1…saṃghasyādhikaraṇāni dharmeṇa vinayena vihitāni vyupaśāntāni punaḥ karmāya utkhoṭeya…¹) —^(2…idaṃ punaḥ karma kartavyaṃ bhaviṣyatīti — etad eva pratyayaṃ kṛtvā ananyam imaṃ tasya bhikṣusya…²) utkhoṭanaṃ³) pācattikaṃ /

1) PrMoSū(P): yathādhamaṃ nihatādhikaraṇaṃ, PrMoSū(Sa): saṃghena yathādharmam niḥśiptam adhikaraṇaṃ, PrMoSū(Mū): samagreṇa saṃghena yathādharmam adhikaraṇam upaniḥśiptaṃ. 2) PrMoSū(P): punakammāya, PrMoSū(Sa): punaḥ karmaṇy, PrMoSū(Mū): punaḥ karmaṇaḥ, PrMoSū(Mū)HvH: punaḥ karmataḥ. 3) PrMoSū(P): ukkoṭeyya, PrMoSū(Sa): utkoṭayet, PrMoSū(Mū): khotayet, PrMoSū(Ma)K: ṭāṇāye[t p](ā)yattikā.

また、いかなる比丘といえども、法（慣習）、規律によって裁決され、取められたサンガの訴訟であると知りながら、再審議（羯磨）のために、再び問題化させようとして、「再審議が行わなければならないだろう」と [言い]、まさにこれを理由として、[この審議と] 異なる [場合] は、これは比丘の [審議の] 再問題化*7 という波逸提である。

【5. 与女説法戒】*8

(5) yo puna bhikṣur akalpiyakāro¹) mātṛgrāmasya dharmam^{(3…deśeya uttari (2…cchahi pañcahi vācāhi…²)} anyatra…³) vijñāpuruṣapudgalena⁴) pācattikaṃ /

1) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): om., PrMoSū(Ma)K: aka[](p)i(ya)kārasya. 2) PrMoSū(Sa): ṣaṭpañcīkayā vācā, PrMoSū(Mū): ṣaṭpañcīkayā vācā. 3) PrMoSū(Ma)K: ḥ pañcābhir vācābhi(r dha)[r](ma)[ṃ] d]eśāye anyatra. 4) PrMoSū(P): viññunā purisaviggahena, PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): vijñāpuruṣāt.

DBMT (s.v. omasavāda) は “Derogatory or insulting words spoken against a monk” とする。

*5 T1426:552a20: 若比丘。兩舌語波夜提。cf. T1425:326b22.

*6 T1426:552a21: 若比丘。知僧如法如律滅諍已。更發起言。此羯磨不了當更作。作是因緣不異波夜提。cf. T1425:327b09-11.

*7 utkhoṭanaṃ. 審議に関して意見に反対し、再問題化すること。PED (s.v. ukkoṭāna, ukkoṭeti), BHSD (s.v. utkoṭāṇa, utkoṭayati) cf. 青野 [2020:479]

*8 T1426:552a23: 若比丘。爲女人説法過五六語。除有智男子。波夜提。cf. T1425:336a16-17.

また、いかなる比丘といえども、淨人のいない者^{*9}が、女性に対して5, 6語以上の言葉をもって法を説くならば、分別のある賢聖^{*10}を除いて、波逸提である。

【6. 未具同誦戒】^{*11}

(6) yo puna bhikṣur anupasaṃpannaṃ pudgalaṃ¹⁾ padaṣo dharmāṃ vāceya pācattikaṃ /

1) PrMoSū(P): om., PrMoSū(Sa): pudgalena sārđhaṃ, PrMoSū(Mū): pudgalāya.

また、いかなる比丘といえども、具足戒を受けていない者に、一語一語法を語るならば、波逸提である。

【7. 実得道戒】^{*12}

(7) yo puna bhikṣur anupasaṃpannasya pudgalasya¹⁾ (2… santike ātmopanāyikam…²⁾ uttarimanuṣyadharmam (3… alamāryajñānadarśanaṃ viśeṣādhigamaṃ pratijāneya — iti jānāmi iti paśyāmīti…³⁾ bhūtasmiṃ⁴⁾ pācattikaṃ /

1) PrMoSū(Mū): pudgalāya. 2) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): om. 3) PrMoSū(P): āroceyya, PrMoSū(Sa): ārocayed, PrMoSū(Mū)B: duṣṭhulāpattim ārocayed. 4) PrMoSū(Ma-L)P: bhūmi tasmiṃ, PrMoSū(Sa): bhūtaṃ, PrMoSū(Mū): bhūtāt.

また、いかなる比丘といえども、具足戒を受けていない人の面前で、自分に属するものとして、最高の人の教え(上人法), [すなわち] 十分にそなえた聖なる人々の知見, 卓越した知識について公言するならば, [すなわち] 「[〜と] 私は知っている, [〜を] 私は見た」^{*13}と[いうならば], 事実上, 波逸提である。

^{*9} kalpiya は、清浄であることを示すわけではなく、「不適切」であることを示す語。kalpiyakāra は「淨人」と漢訳される。出家者が自分で行うことのできない律によって禁じられた行為を代行する在家信者(寺男)のこと。

^{*10} puruṣapudgala. 「覺りに向けた修行の進んだ者」 梵和辞典 (s.v. puruṣapudgala) には「賢聖, 聖人」という漢訳を挙げる。大衆部説出世部所属とされる沙弥戒の註釈『Śrīghanācārasaṃgraha-ṭīkā』では「八賢聖 (aṣṭau puruṣapudgalāḥ)」について、「katame punaste aṣṭau? yaduta srotāpattiphalasākṣātkriyāyai pratipannakaḥ srotāpannakaḥ, sakṛdāgāmi-phalasākṣātkriyāyai pratipannakaḥ sakṛdāgāmi, anāgāmi-phalasākṣātkriyāyai pratipannakaḥ anāgāmi, arhatphalasākṣātkriyāyai pratipannakaḥ arhanniti. (それら八つとはなにか。預流果を覺るために向かう者と預流の者, 一來果を覺るために向かう者と一來の者, 不還果を覺るために向かう者と一來の者, 阿羅漢果を覺るために向かう者と阿羅漢とである)」(Singh[1983:50])とする。

^{*11} T1426:552a25: 若比丘。教未受具戒人説句法。波夜提。cf. T1425:336c-20-21.

^{*12} T1426:552a26: 若比丘。自稱向未受具戒人説得過人法。我如是知如是見。說實者波夜提。cf. T1425:337a19-20.

^{*13} 本条文は、四波羅夷法妄語戒の前半部分の文言と同じである。cf. 吉澤 [2019]

【8. 説麁罪戒】*14

(8) yo puna bhikṣur jānan¹⁾ bhikṣusya duṣṭhullām²⁾ āpattim³⁾ anupasaṃpannasya
(4…pudgalasya santike…⁴⁾ āroceya anyatra⁵⁾ kṛtāye prakāśānāsammutiyē…⁵⁾
pācattikaṃ /

1) PrMoSū(P), PrMoSū(Mū): om. 2) PrMoSū(Ma)K: dauṭṭhulya. 3) PrMoSū(Ma)K: add.
āpannā. 4) PrMoSū(P): om., PrMoSū(Mū): pudgalāya, PrMoSū(Sa), PrMoSū(Ma)K:
pudgalasyāntike. 5) PrMoSū(P): bhikkhusammutiyā, PrMoSū(Sa): saṃghasaṃmatyā,
PrMoSū(Mū)B: saṃghasaṃmatyān [saṃghasaṃvṛtyā], PrMoSū(Mū)HvH: saṃghasaṃvṛtyā.

また、いかなる比丘といえども、知りながら、比丘の重罪*15について具足戒
を受けていない人の前で語るならば、[比丘本人による] 明示の同意がなされ
た場合を除いて、波逸提である。

【9. 羯磨後還遮戒】*16

(9) yo puna bhikṣur jānan¹⁾ (2…sāṃghike lābhe bhājīyamāne…²⁾ (3…pūrve
samanujño bhūtvā…³⁾ paścāt⁴⁾ kṣiyādharmaṃ āpadyeya…⁴⁾ — yathāsaṃstutam
evāyuṣmanto, jānan⁵⁾ sāṃghikaṃ lābhaṃ⁶⁾ saṃghe pariṇataṃ pudgalo
pudgalasya…⁶⁾ pariṇāmayatīti pācattikaṃ /

1) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): om. 2) PrMoSū(P): samaggena saṅghena cīvaraṃ
datvā, PrMoSū(Ma)K: sāṃghikaṃ lābhaṃ [bhājījī…], PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): om. 3)
PrMoSū(P): om. 4) PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū)B: evaṃ vaded, PrMoSū(Mū)HvH: bhikṣūṇāṃ
evaṃ vaded. 5) PrMoSū(P): om. 6) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa): om. PrMoSū(Mū)HvH: pariṇataṃ
ātmanaḥ paudgalikaṃ.

また、いかなる比丘といえども、知りながら、サンガに属する所得物が分与
されている時、以前に認可があつてから、その後で不満を言う*17ならば、[す
なわち]「尊者達よ、他ならぬ親愛の情に従つて*18、サンガに対して寄進され
たサンガに属する所得物と知りながら、個人が個人に対して寄進させる*19」と

*14 T1426:552a28: 若比丘。知比丘麁罪。向未受具戒人説。除僧羯磨波夜提。cf. T1425:338
a8-10.

*15 duṣṭhullām āpattim. 波羅夷法および僧殘法の二つのことを指して重罪としている。DBMT
(s.v. duṭṭhulla-āpatti)

*16 T1426:552b01-03: 若比丘。僧應分物。先聽與而後遮言。長老。汝親厚意迴僧物與人。波夜
提。cf. T1425:338b18-19.

*17 kṣiyādharmaṃ. NPED (s.v. khīya-dhamma) では “the practice of complaining publicly, the
action of public criticising” と説明する。

*18 yathāsaṃstutam. BHSD (s.v. saṃstutikā) では「yathāsaṃstutikāye」について “adv. according
as (you have) an intimate” と説明する。また平川 [1995:223] では漢訳相当部にある「親厚
意」についても詳細に検討する。

*19 波逸提法 91 条に関する言及である。cf. PrMoSū(Ma-L) 波逸提法 91 条, PrMoSū(P) 波逸提

[不満を] 言うならば、波逸提である。

【10. 軽呵戒】*20

(10) yo puna bhikṣur anvardhamāsaṃ¹⁾ sūtre prātimokṣe uddiṣyamāne evaṃ vadeya — kiṃ punar^(3…āyusmanto²⁾ imehi…³⁾ 4) kṣudrānuṣūdrehi śikṣāpadehi uddiṣṭehi⁵⁾ yāvad⁶⁾ eva bhikṣūṇaṃ kaukrtyāya^(7…vighātāya vilekhāya…⁷⁾ saṃvartantūti⁸⁾, 9) śikṣāvigarhaṇe¹⁰⁾ pācattikaṃ /

1) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa): *om.*, PrMoSū(Ma)K: anvardhamāse. 2) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa): *om.* 3) PrMoSū(Ma)K: imebhiḥ āyusmaṃto. 4) PrMoSū(Ma)K: *add.* «bahu»bhiḥ. 5) PrMoSū(Mū)B: anvardhamāsaṃ prātimokṣasūtroddeśair uccāryamānair, PrMoSū(Mū)HvH: anvardhamāsaṃ prātimokṣasūtroddeśa uddiṣṭair. PrMoSū(Ma)K: uddiṣṭebhir. 6) PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): yāni. 7) PrMoSū(P); vihesāya vilekhāya, PrMoSū(Sa): vilekhāya viheṭhāya, PrMoSū(Mū)B: ālekhāya vilekhāya vileṭhāya vipratīsārāya, PrMoSū(Mū)HvH: ālekhāya / vilekhāya / viheṭhāya / vipratīsārāya. 8) PrMoSū(Ma)K: saṃvarta<ṃ>te (')ti. 9) PrMoSū(Ma)K: *add.* imaṃ tasya bhikṣusya. 10) PrMoSū(P): sikkhāpadavivaṇṇanake, PrMoSū(Sa): śikṣāvidaṇḍanāt, PrMoSū(Mū)B: śikṣāpadavilaṃghanāt, PrMoSū(Mū)HvH: śikṣāvibhaṇḍanāt, PrMoSū(Ma)K: śikṣāvigarhaṇatāyaiḥ.

また、いかなる比丘といえども、半月ごとに波羅提木叉のストラが説かれつつある時、次のように言うならば、[すなわち]「また、尊者達よ、まさに比丘達の後悔、徒勞、困惑に導くのに、これら小々戒の条文(学処)の説示に何の意味があるのか」と[言うならば]、戒の条文(学処)に対する非難の場合に、波逸提である。

// uddānam // (1) mṛṣā (2) omṛṣya (3) paiśunya (4) utkhoṭana (5) dharmadeśanā / (6) padaśo (7) viśeṣaṇam (8) ārocana (9) yathāsaṃstuta (10) vigarhaṇena ca // prathamam vargaḥ //

【撰頌】1. 妄語, 2. 誹謗, 3. 中傷, 4. 決定に対する反対, 5. 法の説示, 6. 一語一語, 7. 卓越, 8. 告示, 9. 親愛の情に従って, 10. 非難によって。第1集

【11. 壊生種戒】*21

(11) bījagrāmahūtagrāmapātāpanake¹⁾ pācattikaṃ /

1) PrMoSū(P): bhūtagrāmapātābyatāya, PrMoSū(Sa): bījagrāmahūtagrāmapātānāt, PrMoSū(Mū): bījagrāmahūtagrāmapātāpanāt.

法 82 条。

*20 T1426:552b03-05: 若比丘僧。半月誦波羅提木叉經時作是言。長老。用誦是雜碎戒爲使諸比丘生疑悔作是輕呵戒因緣不異。波夜提。cf. T1425:338c16-19.

*21 T1426:552b06: 若比丘。壊種子破鬼村波夜提。cf. T1425:338c16-19.

種子群と樹木^{*22}の破壊^{*23}において、波逸提である。

【12. 異語惱他戒】^{*24}

(12) anyavādavihiṃsanake¹⁾ pācattikaṃ /

1) PrMoSū(P): aññāvādake vihesake, PrMoSū(Sa): any(a)vādaviheṭhanāt, PrMoSū(Mū): aññāviheṭhanāt, PrMoSū(Ma)K: aññāvāda[v]i.

他者の主張によって悩ませる場合に^{*25}、波逸提である。

【13. 嫌責戒】^{*26}

(13) odhyāyanakṣīyanake¹⁾ pācattikaṃ /

) PrMoSū(P): ujjhāpanake khiyyanake, PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū)B: avadhyānakṣīpanāt, PrMoSū(Mū)HvH: avadhyānakṣepañāt, PrMoSū(Ma)K: .jjhayaṇa<.[I] //>.

苛ちによって^{*27}非難する^{*28}場合に^{*29}、波逸提である。

【14. 露敷僧物戒】^{*30}

(14) yo puna bhikṣuḥ¹⁾ sāṃghike bhikṣuvihāre²⁾ abhyavakāse (4…mañcaṃ vā pīṭhaṃ vā viśikaṃ vā caturaśrakaṃ vā kurcaṃ vā bimbohanaṃ³⁾ vā…⁴⁾ (5…prajñāpetvā vā prajñāpayitvā vā…⁵⁾ tato prakramanto⁶⁾ na uddhareya vā, na uddharāpeya vā, (8…anāmantrayitvā⁷⁾ vā prakrameya…⁸⁾ pācattikaṃ /

1) PrMoSū(Ma)K: *add. jāna[m]*. 2) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): *om.* 3) PrMoSū(Ma)K: b[ī]ṃbopadhānaṃ. 4) PrMoSū(P): mañcaṃ vā pīṭhaṃ vā bhisim vā kocchaṃ vā, PrMoSū(Sa): śāyāsanaṃ pīṭhaṃ vā mañcaṃ vā brisim vā kurcaṃ vā, PrMoSū(Mū): mañcaṃ vā pīṭhaṃ vā vṛṣiko vā bimboadhānacaturaśrakaṃ vā. 5) PrMoSū(P): santharivā

^{*22} bjjagrāmbhūtagrāma. PED (s.v. bjjagāma) 「種子群」は mūla(根)-bija, khandha(幹)-bija, phalu(節)-bija, agga(枝)-bija, bija(種子)-bija の5種をあげる。cf. DN 1, p.5.

^{*23} pātāpanake. 「pātāpanaka」はサンスクリット語辞典、パーリ語辞典に見出せない語形であるが、√pat-のCaus.(pātayati)の特殊なパーリ語形 pātāpayati から派生した名詞形 pātāpana + ka の形式と考えられる。

^{*24} T1426:552b07: 若比丘。異語惱他波夜提。cf. T1425:338c16-19.

^{*25} anyavādavihiṃsanake. 平川 [1994:181] では「異語と他を悩ます時」と訳しており、この語を Dvandva 複合語として解釈している。これはパーリ律波逸提法 12 条「Aññāvādake vihesake」に対する経分別の解釈 (Vin 4, p.36-37) をそのまま適用したものと考えられる。

^{*26} T1426:552b08: 若比丘。嫌責語波夜提。cf. T1425:338c16-19.

^{*27} odhyāyana. BHSD (s.v. avadhyāna), Oguibénine[2002] (s.v. odhyāyati) では “odhyāyana; indignation, abusiveness, contempt” とする。

^{*28} kṣīyanaka. BHSD (s.v. kṣīyati), NPED (s.v. khīyanaka, khiyyanaka)

^{*29} odhyāyanakṣīyanake. 平川 [1994:192] は「嫌讒し、罵れば」と訳す。

^{*30} T1426:552b09-10: 若比丘。僧住處露地敷臥床坐床褥枕。若自敷若使人敷。去時不自擧不使人擧。波夜提。cf. T1425:338c16-19.

vā santharāpetvā vā, PrMoSū(Sa): prajñāpya, PrMoSū(Mū)B: upanikṣipyoparikṣipya vā, PrMoSū(Mū)HvH: upanikṣipyopanikṣeṣya vā. 6) PrMoSū(Ma)K: p<r>akkrameyā. 7) PrMoSū(Ms)K: anāmaṃṭritaṃ. 8) PrMoSū(P): anāpucchaṃ vā gaccheyya, PrMoSū(Sa): om., PrMoSū(Mū): santaṃ bhikṣum anavalokyānyatra tadrūpāt pratyayāt.

また、いかなる比丘といえども、サンガに所属する僧院の空きスペースにおいて、寝台、あるいは椅子、寝台マット^{*31}、シーツ、座布団^{*32}、枕を準備して、あるいは〔誰かに〕準備させて、その後、出て行く者が、撤収せず、〔誰かに〕撤収させず、あるいは告知しないで出て行くならば、波逸提である。

【15. 覆処敷僧物戒】^{*33}

(15) yo punar bhikṣuḥ sāmghike bhikṣuvihāre¹⁾ antośayyā²⁾ (3…prajñāpetvā prajñāpayitvā vā…³⁾ tato prakramanto⁴⁾ na uddhareya vā, na uddharāpeya vā, (5…anāmantrayitvā vā prakrameya…⁵⁾ pācattikaṃ /

1) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): vihāre. 2) PrMoSū(Mū): ṭṭṇasaṃstaraṃ vā paṃsaṃstaraṃ vā. 3) PrMoSū(P): santharitvā vā santharāpetvā vā, PrMoSū(Sa): saṃstīrya vā saṃstārayed vā, PrMoSū(Mū): saṃstīrya vā saṃstārya vā, PrMoSū(Ma)K: prajñāpayitvā vā prajñāpayitvā. 4) PrMoSū(Ma)K: prakramen. 5) PrMoSū(P): anāpucchaṃ vā gaccheyya, PrMoSū(Sa): om., PrMoSū(Mū): santaṃ bhikṣum anavalokyānyatra tadrūpāt pratyayāt.

また、いかなる比丘といえども、サンガに所属する僧院において、屋内ベッド^{*34}を準備して、〔誰かに〕準備させて、そこから出て行く者が、撤収せず、〔誰かに〕撤収させず、あるいは告知しないで出て行くならば、波逸提である。

【16. 牽出房戒】^{*35}

(16) yo punar bhikṣu bhikṣusya (1…duṣṭo doṣāt…¹⁾ kupito ²⁾ anāttamano sāmghikād bhikṣuvihārād³⁾ bhikṣuṃ⁴⁾ nikaḍḍheya vā nikaḍḍhāpeya vā (5…antamasato neha bhikṣu ti vā vadeya…⁵⁾ pācattikaṃ /

1) PrMoSū(P): om., PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): abhiṣaktaḥ. 2) PrMoSū(Sa): add. caṇḍīkrto, PrMoSū(Mū): add. caṇḍībhūto. 3) PrMoSū(Ma)K: bhikṣuvihāre. 4) PrMoSū(P): om. 5) PrMoSū(P): om., PrMoSū(Sa): cara pareṇa mohapurusa naśya tvaṃ na tvayeha vastavyam idam eva pratyayaṃ kṛtvā nānyathāt, PrMoSū(Mū): anyatra tadrūpāt pratyayāt.

^{*31} viśīkaṃ. visika (BHSD s.v. vṛsī, bṛsī, bhisi) と同じ語形。cf. Oguibénine[2005] s.v. bisi.

^{*32} kurcaṃ. BHSD (s.v. kocava, kocavaka, kocca), NPED (s.v. koccha) cf. Oguibénine[2005] s.v. kocaka.

^{*33} T1426:552b11-12: 若比丘。僧房内敷床褥。若自敷若使人敷。去時不自舉不使人舉。波夜提。cf. T1425:338c16-19.

^{*34} antośayyā. cf. Oguibénine[2005] (s.v. antośayyā)

^{*35} T1426:552b13-14: 若比丘。瞋恨不喜。僧房内牽比丘出。若自牽若使人牽。下至言汝出去。波夜提。cf. T1425:338c16-19.

また、いかなる比丘といえども、比丘に対して悪意があり、敵意（瞋志）によって怒った者、[すなわち]快く思っていない者が、サンガに所属する僧院から比丘を排除し^{*36}、あるいは「誰かに」排除させるならば、[そして]最終的には「ここに比丘達はいない」と言うならば、波逸提である。

【17. 強敷坐戒】^{*37}

(17) yo puna bhikṣu sāmghike bhikṣuvihāre¹⁾ jānan bhikṣūṇāṃ²⁾ (4…pūrvaprajñāptāhi³⁾ śayyāhi…⁴⁾ (5…paścād āgatvā…⁵⁾ (6…madhye śayyāṃ prajñāpeya…⁶⁾ yasyodvahiṣyati⁷⁾ so⁸⁾ prakramiṣyatīti / etad eva pratyayaṃ kṛtvā, ananyam⁹⁾ (10…imaṃ tasya bhikṣusya udvāhana…¹⁰⁾ pācattikaṃ /

1) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): vihāre. 2) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa): om. 3) PrMoSū(P): pubbūpagataṃ, PrMoSū(Sa): pūrvopagataṃ, PrMoSū(Mū): pūrvopagatāṇāṃ. 4) PrMoSū(Ma)K: prajñāptāya śayyāya. 5) PrMoSū(P): om. 6) PrMoSū(P): anupakhajja seyyaṃ kappeyya, PrMoSū(Sa): anupraskadya śayyāṃ kalpayed, PrMoSū(Mū): anupraskandyāsane niṣadyāṃ śayyāṃ vā kalpayed. 7) PrMoSū(P): yassa sambādho bhavissati, PrMoSū(Sa): yasya sambādhaṃ bhaviṣyati, PrMoSū(Mū): yasya sambādho bhaviṣyati, PrMoSū(Ma)K: +syodvādho bhaviṣya.. 8) PrMoSū(Ma)K: add. (‘)nyena. 9) PrMoSū(P): anaññaṃ, PrMoSū(Sa): nānyathāt, PrMoSū(Mū): om., PrMoSū(Ma)K: nānyam. 10) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa) PrMoSū(Mū): om., PrMoSū(Ma)K: imaṃ ta[s]ya bhikṣusya udvātāye.

また、いかなる比丘といえども、サンガに所属する僧院において、比丘達が先に準備したベッドと知りながら、後からやって来て、真ん中にベッドを準備させ、「苦痛に感じるならば^{*38}、その者は立ち去るべきである」というならば、まさにこのことを理由として、[この審議と]異なるならば[場合]は、これをその比丘の苦痛^{*39}に関する波逸提という。

【18. 閣上尖脚牀坐戒】^{*40}

(18) yo puna bhikṣuḥ¹⁾ sāmghike bhikṣuvihāre²⁾ uparivaiḥāyasakuṭīkāye³⁾ (4…āhatyapādake…⁴⁾ mañce vā piṭhe vā⁵⁾ (6…abhiniṣideya vā abhinipadyeya vā…⁶⁾ pācattikaṃ /

^{*36} nikaḍḍheya. PED (s.v. nikkadḍhati), BHSD (s.v. niṣkaṭṭati)

^{*37} T1426:552b15-16: 若比丘。知僧房内比丘先敷床褥。後來敷欲擾亂令去。作是因緣不異。波夜提。cf. T1425:338c16-19.

^{*38} udvahiṣyati. MW (s.v. ud-√vah). 対応するパーリ語として NPED (s.v. ubbahati), NPED (s.v. ubbādhati) が収録されている。Karashima[2013:52]: udvādho. Ch. 擾亂。平川 [1994:221] は「uddhahiṣyati (心火に焼かれる)」とするが、これはデーヴァナーガリーの「dva」と「ddha」の文字が似ていることによる読み間違いであろう。

^{*39} udvāhana. NPED (s.v. ubbādhana). 平川 [1994:221] は「uddhāhana (心火に焼かれること)」とするが誤り。

^{*40} T1426:552b17-18: 若比丘。僧房閣屋上敷尖脚床。若坐若臥。波夜提。cf. T1425:338c16-19.

1) PrMoSū(Mū): add. jānan. 2) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): vihare. 3) PrMoSū(P): vehāsakuṭiyā, PrMoSū(Sa): vihāyasikuṭikāyām, PrMoSū(Mū)B: vihāyasikṛtāyām kuṭikāyām, PrMoSū(Mū)HvH: vihāyasi kṛtāyām kuṭikāyām, PrMoSū(Ma)K: [vih]āyasā sapādikāye. 4) PrMoSū(P): āhaccapādakaṃ, PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): ahāryapādake. 5) PrMoSū(Sa): add. balena, PrMoSū(Mū)B: sahasā balena, PrMoSū(Mū)HvH: sahasa balena. 6) PrMoSū(Sa): niṣīded vā nipadyed vā.

また、いかなる比丘といえども、サンガに所属する僧院の中二階の小部屋^{*41}において、簡易的な寝台^{*42}あるいは椅子に、坐るあるいは寝るならば、波逸提である。

【19. 用蟲水戒】^{*43}

(19) yo puna bhikṣur jānan¹⁾ saprāṇakenodakena tṛṇaṃ vā²⁾ mṛttikāṃ vā siñceya vā siñcāpeya vā pācattikaṃ /

1) PrMoSū(Sa): om. 2) PrMoSū(Mū): add. gomayaṃ vā.

また、いかなる比丘といえども、虫のいる水と知りながら、草、あるいは土に注ぎ、あるいは注がせるならば、波逸提である。

【20. 覆屋過限戒】^{*44}

(20) mahallakam¹⁾ bhikṣuṇā vihāraṃ chādāpayamānena²⁾ yāvad dvārakoṣārgala-pratiṣṭhānam³⁾ (4...ālokasandhiparikarmam upādāya...⁴⁾ (5...dve vā trayo vā cchādanaparyāyā...⁵⁾ adhiṣṭhihitavyāḥ⁶⁾ (7...alparharite sthitena...⁷⁾ / taduttariṃ adhiṣṭhiheya (8...alparharite sthito pi...⁸⁾ pācattikaṃ /

1) PrMoSū(Ma)K: mahallake. 2) PrMoSū(P): kārayamānena, PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū)HvH: kārayatā, PrMoSū(Mū)B: kārayitvā. 3) PrMoSū(P): dvārakoṣā aggaḷatthapanāya, PrMoSū(Sa): dvārakoṣārgaḍasthāpana, PrMoSū(Mū)B: dvārakoṣārgalasthānād, PrMoSū(Mū)HvH: dvārakoṣārgaḍasthānād, PrMoSū(Ma)K: dvārakoṣārgaḍaṃ pratiṣṭhāpayamānena. 4) PrMoSū(P):

^{*41} uparivaiḥāyasakuṭikāye. 屋根裏部屋，中二階，ロフト。NPED (s.v. uparivehāsakuṭī), DBMT (s.v. vehāsakuṭī)

^{*42} āhatyapādake. (脚の脱却可能な) 簡易ベッド。NPED (s.v. āhaccapādaka), BHSD (s.v. āhāryapādaka). DBMT (s.v. āhaccapādaka) では “a chair or bench which has its legs fixed in the frame (by drawing out a pin)” と説明している。「āhatya」は ā-√han (打つ，叩く) を語根とする語と推定できるが、他律相当部には P āhacca, BHS āhārya が同義語として使用されるので、ā-√han ではなく、āhārya / āhṛtya (ā-√hr) の Hypersanskrit 化した語形と考えられる。漢訳には「尖脚」という表現が使われるが、どのようなものを指しているか曖昧である。平川 [1994:242] はこの条文に述べられる小部屋はすのこ状の床であるので、抜けた脚が落ちる、あるいは折れた脚が隙間に挟まるなどの危険性があることから禁止されているとする。

^{*43} T1426:552b19: 若比丘。知水有蟲澆草泥。若使人澆。波夜提。cf. T1425:338c16-19.

^{*44} T1426:552b20-21: 若比丘。經營作大房施戶牖。齊再三覆。當於少草地中住教。若過者。波夜提。cf. T1425:338c16-19.

ālokasandhiparikammāya, PrMoSū(Sa): ālokaṣaṃ(dhi)bhūmipari(karm), PrMoSū(Mū): ālokaṣaṃjñinā bhūmiparikarmopādāya. 5) PrMoSū(P): dvitticchadanassa pariyāyaṃ, PrMoSū(Sa): dvau trayo vācchāda(na)pathāḥ saṃcaro, PrMoSū(Mū)B: dvau vā trayo vā chedanaparyāyāḥ, PrMoSū(Mū)HvH: dvau vā trayo vā cchandanaparyāyāḥ, PrMoSū(Ma)K: dvaye traye cchādanaparyāyeṇa. 6) PrMoSū(Sa): vyādhiṣṭhāavyā. 7) PrMoSū(Sa): om., PrMoSū(Mū): saharitāḥ. 8) PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): om.

比丘が大精舎に〔屋根を〕葺かせている時に、および、ドア枠^{*45}の横木の固定する窓^{*46}の準備をもって、二重あるいは三重の屋根葺きの方法が草の少ない場所に留まる〔者〕によって指示されるべきである。それを越えて指示するならば、草の少ない場所に留まる〔者〕であつても、波逸提である。

// uddānaṃ // (11) bījam (12) anyavādaṃ (13) odhyāyanaṃ (14) mañca (15) śayyā (16) nikaḍḍhanaṃ / (17) pūrvopagataṃ (18) vaihāyasaṃ (19) udaka (20) cchādanena // dviṭṭyo vargaḥ //

【撰頌】11. 種子, 12. 異なった言説, 13. 苛立ち, 14. 寝台, 15. ベッド, 16. 排除, 17. 先にやって来ること, 18. 中二階の小部屋, 19. 水, 20. 屋根葺きによって。第2集

【21. 不差教尼戒】^{*47}

(21) yo puna bhikṣu asaṃmato ¹⁾ bhikṣuṇīm²⁾ ovadeya ³⁾ pācattikaṃ /

1) PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): add. saṃghena. 2) PrMoSū(Ma)K: bhikṣuṇī. 3) PrMoSū(Mū)B: add. tadrūpadharmasamanvāgamāt, PrMoSū(Mū)HvH: add. anyatra tatrūpād dharmasamanvāgamāt.

また、いかなる比丘といえども、選任されずに、比丘に対して教化するならば、波逸提である。

【22. 教誡尼至日没戒】^{*48}

(22) saṃmato vāpi¹⁾ ²⁾ bhikṣuḥ bhikṣuṇīm³⁾ ovadeya⁴⁾ (5…vikāle, astaṃgate sūrye…⁵⁾, (7…anūhate⁶⁾ aruṇe…⁷⁾ pācattikaṃ /

1) PrMoSū(Sa): atrāpi. 2) PrMoSū(P): add. ce. 3) PrMoSū(P): bhikkhuniyo, PrMoSū(Sa): bhikṣuṇī, PrMoSū(Mū): om., PrMoSū(Ma)K: bhikṣuṇī. 4) PrMoSū(Mū)B: om. 5) PrMoSū(P): atthaṅgate sūrye, PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): sūryāstaṃgamanakālasamayād. 6) PrMoSū(Ma)K: anohate. 7) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): om.

^{*45} dvārakoṣa. 戸枠, 框。BHSD (s.v. dvārakoṣa), NPED (s.v. dvāra-kosa)

^{*46} ālokasandhi. BHSD (s.v. āloka-saṃdhi), NPED (s.v. āloka-sandhi), DBMT (s.v. ālokasandhi)

^{*47} T1426:552b22: 若比丘。僧不差而教誡比丘尼。波夜提。cf. T1425:338c16-19.

^{*48} T1426:552bb23-24: 若比丘。僧差教誡比丘尼。從日沒乃至明相未出。波夜提。cf. T1425:338c16-19.

あるいはまた、選任された比丘が比丘尼を、非時、[すなわち] 日没^{*49} [から] 日が昇らない^{*50}間に^{*51}、教化するならば、波逸提である。

【23. 不白往尼精舎戒】^{*52}

(23) yo puna bhikṣu ovādaprekṣo¹⁾ bhikṣuṇī-upāśrayam upasaṃkrameya²⁾ (5…santaṃ³⁾ bhikṣum⁴⁾ anāmantrayitvā…⁵⁾, anyatra samaye pācattikaṃ / tatrāyaṃ samayo — gilānā bhikṣuṇī (6…ovaditavyā anuśāsitavyā…⁶⁾ bhavati / ayam atra samayo /

1) PrMoSū(P): bhikkhuniyo ovadeyya, PrMoSū(Ms)K: ovāda<na..prekṣo. 2) PrMoSū(Ma)K: upasaṃkkrame. 3) PrMoSū(Ma)K: saṃtiṃ. 4) PrMoSū(Ma)K: bhikṣuḥ. 5) PrMoSū(P): om. 6) PrMoSū(P): om.

また、いかなる比丘といえども、教化を望む [比丘] が、善比丘^{*53}に告知しないで、比丘尼の住処に近付くならば、正時を除いて、波逸提である。その場合にこの「正時」とは、病気の比丘尼が教化されるべき、[あるいは] 教授されるべき [場合] である。ここでは、これが「正時」である。^{*54}

【24. 譏教尼人戒】^{*55}

(24) yo puna bhikṣu bhikṣum¹⁾ evaṃ vadeya²⁾ — (8…āmiṣahetor³⁾ āyuṣman⁴⁾ bhikṣu⁵⁾ bhikṣuṇīṃ te⁶⁾ ovadatīti^{7)...}⁸⁾ pācattikaṃ /

1) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa): om. PrMoSū(Ma)K: bhikṣusya. 2) PrMoSū(Ma)K: vade. 3) PrMoSū(Mū)B: āmiṣakiṃcithetor, PrMoSū(Mū)HvH: āmiṣakiṃcitkahetor. 4) PrMoSū(P): therā, PrMoSū(Mū)HvH: āyuṣmanto. 5) PrMoSū(P): bhikkhū, PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): bhikṣavo. 6) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): om. 7) PrMoSū(P): ovadantīti, PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): avavadantīti. 8) PrMoSū(Ma)K: āmiṣaheto āyuṣmanto bhikṣuḥ bhikṣuṇī ovadeyā.

^{*49} astamgate sūrye. MW (s.v. astagamana), PTSD (s.v. atthaṅgata) atthaṅgate suriye; at sunset.

^{*50} anūhate aruṇe. 「日が昇らない、日の出前」と解する。NPED (s.v. uddhata, ūhata)

^{*51} vikāle, astamgate sūrye, anūhate aruṇe. 「午後、[すなわち] 日没から日の出まで」という時間の範囲を示していると解した。DBMT (s.v. vikāla) は “the period of vikāla begins from the noon and remains upto the dawn of the next day” と説明する。

^{*52} T1426:552b25-26: 若比丘。往尼住處教誡。不白善比丘。除餘時波夜提。餘時者病時。cf. T1425:338c16-19.

^{*53} santaṃ bhikṣum. 善比丘。santaṃ は「存在している」「善い、正しい」を意味する √as-の現在分詞であり、漢訳では「善比丘」とする。この文脈では目的があつて比丘尼のもとに向かおうとしている比丘の近くにいた同僚の比丘のことと考えられる。あるいはグループを管理する「目上の(上座)」比丘を意味する可能性もある。

^{*54} PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū) には対応する条文を欠く。

^{*55} T1426:552b27-28: 若比丘語比丘言。長老。爲食故教誡比丘尼。波夜提。cf. T1425:338c16-19.

また、いかなる比丘といえども、比丘にこのように〔誹謗して〕言うならば、〔すなわち〕「尊者よ、比丘は利得のために比丘尼を教化する^{*56}」という〔ならば〕、波逸提である。

【25. 與尼屏処坐戒】^{*57}

(25) yo puna bhikṣu bhikṣuṇīya¹⁾ sārdham eko ekāya raho²⁾ (4…niṣadyāṃ kalpeya^{3)…4)} pācattikaṃ /

1) PrMoSū(Sa): mātṛgrāmeṇa. 2) PrMoSū(Sa): abhyavakāṣe. 3) PrMoSū(Ma)K: kalpaye. 4) PrMoSū(Mū): praticchanne tiṣṭhet.

また、いかなる比丘といえども、比丘尼と共に一対一で人目に付かない座席を用意するならば、波逸提である。

【26. 與尼期行戒】^{*58}

(26) yo puna bhikṣu bhikṣuṇīya¹⁾ sārdham saṃvidhāya²⁾ adhvanamārgaṃ³⁾ pratipadyeya antamasato⁴⁾ grāmāntaraṃ⁵⁾ pi, anyatra⁶⁾ samaye, pācattikaṃ / tatṛāyaṃ samayo — 7) mārgo bhavati (8…sabhayo sapratibhayo sāsāṅkasammato…8) 9) / ayam atra samayo /

1) PrMoSū(Mū): bhikṣuṇīsārthena, PrMoSū(Ma)K: bhikṣuṇīye. 2) PrMoSū(Mū)HvH: om. 3) PrMoSū(P): ekaddhānamaggaṃ, PrMoSū(Sa): samānamārgaṃ, PrMoSū(Mū)B: adhvanamārgaṃ, PrMoSū(Mū)HvH: adhvanamārgaṃ, PrMoSū(Ma)K: adhvanamārgaṃ. 4) PrMoSū(Sa): antato, PrMoSū(Mū)B: ato, PrMoSū(Mū)HvH: om. 5) PrMoSū(Mū)HvH: om. 6) PrMoSū(Mū)B: om. 7) PrMoSū(P): add. satthagamaṇīyo, PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): sārthagamaṇīyo. 8) PrMoSū(P): sāsāṅkasammato sappatibhayo, PrMoSū(Sa): sabhayaṣammatāḥ sapratibhayabhairavaṣammato, PrMoSū(Mū): sāsāṅkasammatāḥ sabhayaṣammatāḥ sapratibhayabhairavaṣammato. 9) PrMoSū(Ma)K: add. «sasārthagamaṇīyo».

また、いかなる比丘といえども、比丘尼と共に、企図して、旅路を行く^{*59}ならば、たとえ〔隣〕村〔まで〕の間としても、正時を除いて、波逸提である。その場合にこの「正時」とは、道が恐れを伴う、〔あるいは〕危険を伴う、不安に

^{*56} テキストには「āmiṣahetor āyuṣman bhikṣu bhikṣuṇīm te ovadati」とあるが、文中の「te」の役割が不明であるため、これを削除して読む。Karashima[2013: f.n. 80]は写本にない文字であり、誤って「te」を入れてしまったものと註を付けている。おそらく写本に使われるベンガル系文字で「te」と「o」が類似していることにより、テキストを作る際に必要のない語を入れてしまったものと考えられる。あるいは対応する他律の条文においては全て複数形の文章「比丘たちが教化する」となっているため、本文についても本来は複数形であったと考えるべきであろうか。

^{*57} T1426:552b29: 若比丘。共一比丘尼空静處坐。波夜提。cf. T1425:338c16-19.

^{*58} T1426:552c01-02: 若比丘。與比丘尼期共道行。下至聚落間。除疑怖畏估客伴時波夜提。cf. T1425:338c16-19.

^{*59} adhvanamārgaṃ pratipadyeya. BHSD (s.v. adhva-mārga-pratipanna) には “when on a journey”

感じる [場合] である。ここでは、これが正時である。

【27. 與尼同船戒】*60

(27) yo puna bhikṣu bhikṣuṇīya¹) sārđhaṃ saṃvidhāya ekanāvāṃ abhiruheya ūrdhvagāminīṃ vā adhogāminīṃ vā, anyatra tiryottaraṇāya²) pācattikaṃ /

1) PrMoSū(Mū): bhikṣuṇīsārtheṇa. 2) PrMoSū(P): tiryantaraṇāya, PrMoSū(Sa): tiryakpārasaṃtaraṇāt, PrMoSū(Mū)B: tiryakpārasantaṇāt, PrMoSū(Mū)HvH: tiryakpārasantaṇāt, PrMoSū(Ma)K: tiryutt[ar]aṇāye.

また、いかなる比丘といえども、比丘尼と共に、企図して、上流行き、あるいは下流行きの一つの船に乗るならば、横断*61を除いて、波逸提である。

【28. 與尼衣戒】*62

(28) yo puna bhikṣu anyātikāye¹) bhikṣuṇīye cīvaraṃ dadyād (2…anyatra pallaṭṭhakena…²) pācattikaṃ /

1) PrMoSū(P): aññātikāya, PrMoSū(Sa): ajñātyā, PrMoSū(Mū): ajñātikāyai. 2) PrMoSū(P): aññatra pārivattakā, PrMoSū(Sa): om., PrMoSū(Mū): anyatra parivartakāt, PrMoSū(Ma)K: anyatra parivartake«na».

また、いかなる比丘といえども、親戚でない比丘尼に衣を与えるならば、交換*63の場合を除いて、波逸提である。*64

【29. 與尼作衣戒】*65

(29) yo puna bhikṣur anyātikāye¹) bhikṣuṇīye (2…cīvaraṃ sīveya vā sīvāpeya vā…²) pācattikaṃ /

1) PrMoSū(P): aññātikāya, PrMoSū(Sa): ajñātyā, PrMoSū(Mū): ajñātikāyā. 2) PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): cīvaraṃ kuryāt, PrMoSū(Ma)K: cīvaraṃ sīved vā sīvāpayed vā.

また、いかなる比丘といえども、親戚でない比丘尼のために衣を縫い、あるいは [誰かに] 縫わせるならば、波逸提である。

*60 T1426:552c03-04: 若比丘。與比丘尼期共載船。上水下水。除直渡波夜提。cf. T1425:338c16-19.

*61 tiryottaraṇāya. tiryā-uttaraṇa. NPED: tiryāṃ taraṇā.

*62 T1426:552c05: 若比丘。與非親里比丘尼衣。除貿易波夜提。cf. T1425:338c16-19.

*63 pallaṭṭhakena. 吉澤 [2020:92 f.n. 19] 参照。parivartaka の俗語形。CDIAL: pallaṭṭ-; *paliāṭṭa- < Pk. pariaṭṭa < Skt. parivartate.

*64 本条文は捨墮法第4条との関連が見られる。

*65 T1426:552c06: 若比丘。與非親里比丘尼作衣。波夜提。cf. T1425:338c16-19.

【30. 食尼讚歎食戒】^{*66}

(30) yo puna bhikṣur jānan¹⁾ bhikṣuṇīparipācitaṃ piṇḍapātaṃ paribhuñjeya, anyatra pūrve²⁾ gr̥hīsamārambhe pācattikaṃ /

1) PrMoSū(Sa): om. 2) PrMoSū(Sa): prāg.

また、いかなる比丘といえども、知りながら、比丘尼 [の要請で] 調理された^{*67} 施食を食べるならば、事前に在家が着手していた場合を除いて、波逸提である。

// uddānaṃ // (21) asaṃmato (22) saṃmato cāpi (23) ovādo (24) āmiṣaṃ (25) niṣadyā ca / (26) adhvānamārgo (27) nāvā ca (28) deti (29) sīveti (30) paripācanena // tṛtiyo vargaḥ //

【摂頌】 21. 21. 選任なし, 22. 選任があっても, 23. 教化, 24. 利得, 25. 同席, 26. 旅路, 27. 船, 28. 与える, 29. 縫う, 30. 料理によって。第3集

【31. 食過受戒】^{*68}

(31) ekāhaparamaṃ¹⁾ 2) bhikṣuṇā agilānena āvasathapiṇḍapāto³⁾ paribhuñjītavayo, taduttariṃ⁴⁾ paribhuñjeya pācattikaṃ /

1) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): om. 2) PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): add. ekāvasathoṣitena. 3) PrMoSū(P): eko āvasathapiṇḍo, PrMoSū(Sa): ekaḥ piṇḍapāta(h), PrMoSū(Mū): ekaḥ piṇḍapātaḥ. 4) PrMoSū(P): tato ce uttariṃ.

一日を限度として、無病の比丘は休憩処の施食^{*69} を食べるべきである。それを越えて食べるならば、波逸提である。

【32. 処々食戒】^{*70}

(32) paramparābhōjane anyatra samaye pācattikaṃ / tatrāyaṃ samayo gilānasamayo¹⁾ cīvaradānakālasamayo²⁾ / ayam atra samayo /

^{*66} T1426:552c07: 若比丘。知比丘尼讚歎食。除舊檀越波夜提。cf. T1425:338c16-19.

^{*67} paripācīta. 辞書に記載される意味は「料理, 料理された」である。bhikṣuṇīparipācīta を「比丘尼のために作られた」とすると後に続く「pūrve gr̥hīsamārambhe」と整合が取れないと考えられる。ここでは動詞前綴 pari の持つ意味を重視し、比丘尼が料理に関わった、あるいは比丘尼が要請して信者に作らせた料理という内容を含むと推測できるため、「料理を完成させた、仕上げた」とした。平川 [1994:322ff] は paripācīta を「斡旋した」と訳すが、これはパーリ律経分別 (Vin4, p.67) に「detha ayyassa, karotha ayyassā’ ti: eṣā paripāceti nāma (聖者に与えよ, 聖者のために作れ, というこれが「調理」である)」とあることから南伝大蔵経では「斡旋した」と訳が与えられている。これを採用したと考えられる。

^{*68} T1426:552c09: 若比丘。施一食處。不病比丘過一食波夜提。cf. T1425:338c16-19.

^{*69} āvasathapiṇḍapāto. 集会所や休憩所のような比丘の集まる場所に用意された食事。NPED (s.v. āvasatha-piṇḍa), DBMT (s.v. āvasatha-piṇḍa).

^{*70} T1426:552c10: 若比丘。處處食。除病時衣時波夜提。cf. T1425:338c16-19.

1) PrMoSū(Mū)B: *add.* karmasamayaḥ adhvānamārgasamayaḥ, PrMoSū(Mū)HvH: *add.* karmasamayaś. 2) PrMoSū(P): cīvaradānasamayo, cīvarakārasamayo. PrMoSū(Ma)K: cīvarakālasamayo.

相互 [招待] の食事^{*71}の場合に、正時を除いて、波逸提である。その場合にこの「正時」とは、病気の時、施衣の時 [である]。ここでは、これが「正時」である。

【33. 不作残食法食戒】^{*72}

(33) yo puna bhikṣur¹⁾ bhuṃjāvī pravārito^(2…utthito āsanāto…2), (3…anātiriktaṃ kṛtaṃ…³⁾ khādaniyaṃ vā bhojanīyaṃ vā khādeya vā bhuṃjeya vā⁴⁾ pācattikaṃ /

1) PrMoSū(Ma)K: *add.* jīāna><ṃ>. 2) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū), *om.*
3) PrMoSū(P): anātirittaṃ, PrMoSū(Sa): akṛtā(t)iriktaṃ, PrMoSū(Mū)B: akṛtātiriktaṃ, PrMoSū(Mū)HvH: san akṛtaniriktaṃ, PrMoSū(Mū)LC: akṛtaniriktaṃ. 4) PrMoSū(Ma)K: *add.* bhukte.

また、いかなる比丘といえども、食べ終わり、満足して、座席を立った [比丘] が、残食法を行わずに^{*73}、堅い食べ物あるいは柔らかい食べ物^{*74}を、嘔み、あるいは食べるならば、波逸提である。

【34. 勸足食戒】^{*75}

(34) yo puna bhikṣur jānan bhikṣu bhuktāvī pravāritam^(1…utthitam āsanāto…1) āsādanāprekṣo²⁾ anātiriktakṛtena³⁾ khādaniyena vā bhojanīyena vā upanimantreya⁴⁾, ehi⁵⁾ bhikṣu⁶⁾ khādāhi bhuṃjāhīti vā vadeya⁷⁾ bhuktasmiṃ⁸⁾ pācattikaṃ /

1) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): *om.* 2) PrMoSū(Ma)K: āsvādanāprekṣyo.
3) PrMoSū(Ma)K: anādiriktaṃ kṛtaṃ. 4) PrMoSū(P): abhihaṭṭhuṃ pavāreyya,

^{*71} paramparābhojane. BHSD (s.v. paramparabhojana), DBMT (s.v. parampara-bhojana) は “taking or accepting the bhojana (a meal of five kinds) at another person’s place setting aside the previous invitation of a person” と説明する。

^{*72} T1426:552c11: 若比丘。食已足離坐處。不作殘食法。食者波夜提。cf. T1425:338c16-19.

^{*73} anātiriktaṃ. DBMT (s.v. anātiritta-(bhojana)) には “food other than the ‘remains’, ‘leavings’ of the meal; i.e. fresh” という説明があることから、「食べ残してない (食べ物)」と直訳できるが、これは漢訳に「残食法」の記述があるように浄法が行われていない食べ物に関する禁止事項である。平川 [1994:397ff] は、比丘は食事に満足して席を立てば、次の日の出まで食することはできないが、食べ終わった後で信者から食べ物が施された場合にも食べられるようにする浄法 (便法) が「残食法 (atirikta)」であると説明する。

^{*74} khādaniyaṃ. BHSD (s.v. khādaniya) = khādyā. khādaniya(khādyā) は堅い食べ物のことであり、この語と共に使われる bhojanīya は柔らかい食べ物を意味する。

^{*75} T1426:552c13-14: 若比丘。知彼比丘食已足離坐處不作殘食法。欲惱故勸言。長老食此食。食者波夜提。cf. T1425:338c16-19.

PrMoSū(Sa): yāvadārtham pravārayed, PrMoSū(Mū): ityartham pravārayed, PrMoSū(Ma)K: (‘)panimaṃtraye. 5) PrMoSū(P): handa, PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): om. 6) PrMoSū(Ma)K: āvuso. 7) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): om. 8) PrMoSū(Sa): kaccid eṣa bhikṣur muhūrtaṃ apy āsāditaḥ syād idam eva pratyayaṃ kṛtvā nānyathā, PrMoSū(Mū): kaścid eṣa bhikṣur āsvādito bhaviṣyati ity etad eva pratyayaṃ kṛtvā, PrMoSū(Ma)K: [bhu]kt[e].

また、いかなる比丘といえども、食べ終わり、満足して、座席を立った [比丘] に、[それを] 知りながら、困らせることを望む [比丘] が、残食法を行わずに、堅い食べ物あるいは柔らかい食べ物を提供して、「さあ比丘よ、嘸みなさい、食べなさい」と言うならば、食事に関する波逸提である。

【35. 不受食戒】*76

(35) yo puna bhikṣur (1…adinnaṃ apratigrāhitaṃ…¹) (2…mukhadvārikam āhāraṃ…²) āhāreya anyatrodakadantapoṇe³) pācattikaṃ /

1) PrMoSū(P): adinnaṃ, PrMoSū(Sa): aparighṛitaṃ, PrMoSū(Mū): adattam. 2) PrMoSū(P): mukhadvāraṃ āhāraṃ, PrMoSū(Sa): āhāraṃ mukhadvāreṇa, PrMoSū(Mū)B: mukhadvārāhāraṃ, PrMoSū(Mū)HvH: mukhābhyavahāryam āharam. 3) PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): udakadantakāṣṭhāt, PrMoSū(Ma)K: udakadantakāṣṭhe.

また、いかなる比丘といえども、与えられず、受け取らずに、口に食物を運ぶならば、水と齒木を除いて、波逸提である。

【36. 非時食戒】*77

(36) vikālabhojane¹) pācattikaṃ /

1) PrMoSū(P): yo pana bhikkhu vikāle khādanīyaṃ vā bhojanīyaṃ vā khādeyya vā bhuñjeyya vā, PrMoSū(Sa): yaḥ punar bhikṣur akāle khādanīyabhojanīyaṃ khāded vā bhuñjīta vā, PrMoSū(Mū): yaḥ punar bhikṣur akāle khādanīyabhojanīyaṃ khāded bhuñjīta vā.

非時*78の食事の場合に、波逸提である。

【37. 停食食戒】*79

(37) sannidhikārabhojane¹) pācattikaṃ /

1) PrMoSū(P): yo pana bhikkhu sannidhikāraṃ khādanīyaṃ vā bhojanīyaṃ vā khādeyya vā bhuñjeyya vā, PrMoSū(Sa): yaḥ punar bhikṣuḥ saṃnihitaṃ khādanīyabhojanīyaṃ khāded vā bhuñjīta vā, PrMoSū(Mū): yaḥ punar bhikṣuḥ saṃnihitaṃ khādanīyabhojanīyaṃ khāded bhuñjīta vā, PrMoSū(Ma)K: sannidhikārabhojane.

*76 T1426:552c15-16: 若比丘。不與不受著口中。除水及楊枝波夜提。cf. T1425:338c16-19.

*77 T1426:552c17: 若比丘。非時食波夜提。cf. T1425:338c16-19.

*78 非時。一般的な比丘の食事可能な時間から外れた、正午から日の出までのこと。

*79 T1426:552c18: 若比丘。停食食波夜提。cf. T1425:338c16-19.

貯蔵した^{*80}食事の場合に、波逸提である。

【38. 食過受戒】^{*81}

(38) bhikṣuṃ kho punaḥ kulehi¹⁾ upasaṃkrāntaṃ^{2) 3)} pravāreṃsu⁴⁾ pūpehi⁵⁾ vā manthehi⁶⁾ vā / tathāpravāritena⁷⁾ bhikṣuṇā yāvat⁸⁾ tripātrapūraparamaṃ⁹⁾ tato¹⁰⁾ pratigṛhṇitavyaṃ / pratigṛhṇitvā (11…bahirdhā nīharitavyaṃ…¹¹⁾ / (15…bahirdhā nīharitvā¹²⁾ (13…agilānekehi bhikṣūhi…¹³⁾ sārđhaṃ saṃvibhajitvā¹⁴⁾ khāditavyaṃ bhūṃjitavyaṃ /…¹⁵⁾ taduttariṃ pratigṛhṇitvā (19…bahirdhā nīharitvā (16…agilānekehi bhikṣūhi…¹⁶⁾ (17…sārđhaṃ saṃvibhajitvā vā…¹⁷⁾ asaṃvibhajitvā vā khādeya vā bhūṃjeya vā¹⁸⁾…¹⁹⁾ pācattikaṃ /

- 1) PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): saṃbahulāḥ kulāni, PrMoSū(Ma)K: kuleṣu. 2) PrMoSū(P): upagataṃ, PrMoSū(Sa): upasaṃkrāmeyus, PrMoSū(Mū)B: saṃkrāmeyus, PrMoSū(Mū)HvH: upasaṃkrāmeyus. 3) PrMoSū(Sa): *add.* tāṃś cec chrāddhā b(r)āhmaṇagr(ha)patay(o yāva)darthaṃ, PrMoSū(Mū)B: *add.* tāṃś cec chrāddhā brāhmaṇagr(ha)patayay tv arthaṃ, PrMoSū(Mū)HvH: tāṃś cec chrāddhā brāhmaṇagr(ha)patayo tyartham. 4) PrMoSū(P): abhihaṭṭhuṃ pavāreyya. 5) PrMoSū(P), PrMoSū(Ms-L)P: pūvehi. 6) PrMoSū(Mū)B: maṇḍaiś. 7) PrMoSū(P): ākaṅkhamānena, PrMoSū(Sa): ākāṃṣāmaṇaiś, PrMoSū(Mū)B: ākāṃṣābhis, PrMoSū(Mū)HvH: ākāṅṣādbhis, PrMoSū(Ma)K: tataḥ pravāritena. 8) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū), PrMoSū(Ma)K: *om.* 9) PrMoSū(P): dvittipattapūrā, PrMoSū(Sa): dv(au) trayo (vā) pātrapūrāḥ, PrMoSū(Mū): dvau trayo vā pātrapūrāḥ. 10) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū), PrMoSū(Ma)K: *om.* 11) PrMoSū(Ma)K: *om.* 12) PrMoSū(Ma)K: vābhiniṛ<ar>itvā. 13) PrMoSū(Ma)K: agilāne(na) bh[i]kṣuṇā. 14) PrMoSū(Ma)K: sa(ṃ)vivgajitvā. 15) PrMoSū(P): dvittipattapūre paṭiggahetvā tato nīharitvā bhikkhūhi saddhiṃ saṃvibhajitabbaṃ. ayaṃ tattha sāmīci, PrMoSū(Sa): dvau trīṃ vā pātrapūrāṃ pratigṛhya bahi(r ārā)maṃ (n)īṣk(r)amyā santo bhikṣavaḥ saṃvedayitavyā iyaṃ tatra sāmīciḥ, PrMoSū(Mū): dvau trīn vā pātrapūrān pratigṛhya tair bhikṣubhir bahirāramāṃ gatvā santo bhikṣavaḥ saṃvibhaktavyā ātmanā ca paribhoktavyam ayaṃ tatra samayaḥ. 16) PrMoSū(Ma)K: agilānena bhikṣuṇā. 17) PrMoSū(Ma)K: *om.* 18) PrMoSū(Ma)K: *add.* bhukte. 19) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): *om.*

実にまた、在家達は近付いてきた比丘に餅菓あるいはマンタ^{*82}をもって「招待の食事を」提供すべきである。そのように提供された比丘は、満たされた三つの鉢までを限度として、そこで受け取るべきである。[それを]受け取って外に持ち出すべきである。外に持ち出して、無病の比丘達と共に分け合い、

^{*80} sannidhikārabhojane. 保存した、あるいは倉庫などに貯蔵した食べ物。DBMT (s.v. sannidhikārakam)

^{*81} T1426:552c19-20: 若比丘。往白衣家自恣與餅麩。得受兩三鉢出外共不病比丘食。若過受不共食波夜提。cf. T1425:338c16-19.

^{*82} manthehi. 酪漿、麩。どのような乳製品かはっきりしないが、MW および梵和辞典では mantha(s.v.) は「混合飲料(炒った大麦の粉を混ぜた牛乳)」とする。

嘯むべきであり、食べるべきである。それを越えて受け取って、外に持ち出して、無病の比丘達と共に分け合っても、あるいは分け合わないでも、嘯む、あるいは食べるならば、波逸提である。

【39. 索美食戒】*83

(39) yāni kho punar imāni¹⁾ 2) (3…prañītasammatāni bhojanāni bhavanti…³⁾ samyyathīdaṃ (4…sarpistailaṃ madhu phāṇitaṃ dugdhaṃ dadhi matsyaṃ māṃsaṃ…⁴⁾ (6…yo puna bhikṣur evaṃrūpāni (5…prañītasammatāni bhojanāni…⁵⁾…6) ātmāthāya agilāno kulehi⁷⁾ (8…vijñāpetvā vā vijñāpayetvā vā khādeya vā bhujjeya vā…⁸⁾9) pācattikaṃ /

1) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): tāni. 2) PrMoSū(Sa): *add.* kuleṣu, PrMoSū(Mū): *add.* bhagavatā bhikṣūṇaṃ. 3) PrMoSū(P): pañītabhojanāni, PrMoSū(Sa): prañītabhojanāny anujñātāni, PrMoSū(Mū): prañītabhojanāny akhyātāni. 4) PrMoSū(P): sappi, navanītaṃ, telaṃ, madhu, phāṇitaṃ, maccho, māṃsaṃ, khīraṃ, dadhi, PrMoSū(Sa): kṣīraṃ dadhi navanītaṃ sarpis tailaṃ matsyo māṃsavallūrā, PrMoSū(Mū)B: kṣīraṃ dadhi navanītaṃ matsyo māṃsavallūrā, PrMoSū(Mū)HvH: kṣīraṃ dadhi navanītaṃ matsyamāṃsavallūrā. 5) PrMoSū(P): pañītabhojanāni, PrMoSū(Sa): PrMoSū(Mū): prañītabhojanāny. 6) PrMoSū(Ma)K: tāni ca bhikṣu. 7) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa): *om.*, PrMoSū(Mū): parakulebhyo, PrMoSū(sa)K: kuleṣūpasamkkramitvā. 8) PrMoSū(P): viññāpetvā bhujjeya, PrMoSū(Sa): vijñāpayet, PrMoSū(Mū): vijñāpya khādet bhujjīta vā. 9) PrMoSū(Ma)K: *add.* bhukte.

実にまた、何であれこれらの美味いと認められた食物がある。例えば、熟酥、油、蜜、砂糖、ミルク、酸乳、魚、肉 [である]。また、いかなる比丘といえども、このような美味いと認められた食物を、無病の [比丘] が在家達によって自分のために求めて、あるいは求めさせて、嘯む、あるいは食べるならば、波逸提である。

【40. 別衆食戒】*84

(40) gaṇabhojane anyatra samaye pācattikaṃ / tatrāyaṃ samayo — gilānasamayo cīvaradānakālasamayo¹⁾ adhvānagamasamayo²⁾ nāvābhirohaṇasamayo³⁾ (4…mahāsamayo śravaṇabhakṭaṃ…⁴⁾ / ayam atra samayo /

1) PrMoSū(P): cīvaradānasamayo, cīvarakārasamayo, PrMoSū(Mū): karmasamayo. 2) PrMoSū(Mū)HvH: dhvasamayo. 3) PrMoSū(Sa): nāvābhirohaṇaṃ, PrMoSū(Mū):

*83 T1426:552c21-22: 若比丘。不病爲身乞酥油蜜石蜜乳酪魚肉。如是乞美食食者波夜提。cf. T1425:338c16-19.

*84 T1426:552c23-24: 若比丘。別衆食。除餘時波夜提。餘時者。病時衣時行時船上時大衆會時外道施食時。『摩訶僧祇律』には波逸提法第40条「別衆食戒」に相当する部分を欠いていることが、割注にて「第四跋渠竟 祇桓精舍中梵本蟲瞰脫無此別衆食戒 (T1425:362b24)」と記載されている。

nāvādhīrohaṇaṃ. 4) PrMoSū(P): mahāsamayo, samaṇabhattasamayo, PrMoSū(Sa): mahāsamājaśramaṇabhaktasamayo, PrMoSū(Mū)B, PrMoSū(Mū)HvH: mahāsamājah śramaṇabhaktasamayo, PrMoSū(Mū)LC: mahāsamājah śramaṇabhaktam, PrMoSū(Ma)K: mahāsamāyo śramaṇabhaktam.

集団の食事^{*85}の場合に、正時を除いて、波逸提である。その場合にこの「正時」とは、病気の時、施衣の時、旅路にある時、乗船の時、大衆会^{*86}の時、沙門の食事^{*87} [の時] である。ここでは、これが「正時」である。

// uddānaṃ // (31) āvasatho (32) parampara (33) pravāraṇā (34) āsādanā (35) adinnaṃ / (36) vikālaṃ (37) sannidhiṃ (38) manthā (39) vijñaptiḥ (40) gaṇabhojanena // caturtho vargaḥ //

【撰頌】 31. 施食処, 32. 相互, 33. 招待, 34. 困らせること, 35. 与えられない, 36. 非時, 37. 貯蔵, 38. マンタ, 39. 準備, 40. 集団の食事によって。第4集

【41. 露地燃火戒】^{*88}

(41) yo puna bhikṣur ātmārthāya¹⁾ agilāno jyotismiṃ²⁾ 3) vitāpanāprekṣo⁴⁾ (5…ṭṭṇaṃ vā kāṣṭhaṃ vā gomayaṃ vā sakalikāṃ vā tuṣaṃ vā saṃkāraṃ vā…5) (6…ādaheya vā ādahāpeya vā…6) (7…anyatra samaye…7) pācattikaṃ /

1) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa): om. 2) PrMoSū(Ma-L)P: kṣobhismin, PrMoSū(Ma)K: j(y)otis(m)iṃ. 3) PrMoSū(Sa): add. abhyavakāṣe. 4) PrMoSū(P): visibbanāpekkho, PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): vitapanaprekṣī. 5) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): om. PrMoSū(Ma)K: kāṣṭhaṃ vā ṭṭṇaṃ vā gomayaṃ vā śakalikāṃ vā (tu)ṣaṃ vā [s](aṃ)k[a]ra[m]. 6) PrMoSū(P): amādaheyya vā samādahāpeyya vā, PrMoSū(Sa): samindhyāt samedhayed vā, PrMoSū(Mū)B: samavadhavyāt samavadhāpayed vā, PrMoSū(Mū)HvH: samavadhyāt samavadhāpayed vā, PrMoSū(Ma)K: uddahed vā uddahāpayed vā. 7) PrMoSū(P): aññatra tathārūpapaccayā, PrMoSū(Sa): anyatra pratyayāt, PrMoSū(Mū), PrMoSū(Ma)K: om.

^{*85} 別衆食 (gaṇabhojana)。「gaṇa」は4人以上の比丘の小グループのこと。4人以上の比丘が集まるのは別の僧伽を形成することを意味するので避けなければならない。施主が比丘に食事を供養する場合は、2～3人の少人数は許容されるが、4人を超える場合は僧団の全体で招待を受けなければならない。cf. 平川 [1993:352-353]

^{*86} mahāsamaya. 大衆会。本来の形は「mahāsamājasamaya」であったものが「samāja」の俗語形が「samāya / samaya」と推測されることから単語の繰り返しと誤解されることで脱落したと考えられる。

^{*87} śravaṇabhaktam. 他律の同条文では「śramaṇabhakta / samaṇabhatta」および『摩訶僧祇律』に「外道施食」とあることから「śramaṇabhakta」であったと推測される。本テキストでは「śravaṇa」と「śramaṇa」を同義（あるいは Hypersanskrit 形）として使用していると考えられる。

^{*88} T1426:552c25-26: 若比丘。無病自爲身然草木牛屎。若自然若使人然。除因緣波夜提。cf. T1425:338c16-19.

また、いかなる比丘といえども、火において自分のために〔身体を〕温めることを望む無病の〔比丘〕が、草、木、牛糞、藎を伴う植物、穀殻、あるいは塵芥を燃やし、あるいは〔誰かに〕燃やさせるならば、正時を除いて、波逸提である。

[42. 未具同宿戒]*89

(42) yo puna bhikṣur anupasaṃpanna (1…pudgalena sārddhaṃ…¹) uttari dvirātraṃ trirātraṃ²) vā sahaḡāraśayyāṃ³) kalpeya⁴) pācattikaṃ /

1) PrMoSū(P): om. 2) PrMoSū(Ma)K: trirātraparamaṃ. 3) PrMoSū(P): sahaḡeyyāṃ. 4) PrMoSū(Mū)LC: prakalpayet.

また、いかなる比丘といえども、具足戒を受けていないものと共に、二晩、あるいは三晩以上、同宿する*90ならば、波逸提である。

[43. 與欲後悔戒]*91

(43) yo puna bhikṣu bhikṣūṅāṃ¹) karmaṇā²)³) cchandaṃ⁴) datvā paścād (7…duṣṭo⁵) doṣāt kupito anāttamano evaṃ vadeya — adinno me⁶) chando, durdinno me chando, akṛtāny etāni karmāṇi duṣkrtāny etāni karmāṇi, nāham eteṣāṃ karmaṇāṃ cchandaṃ demīti vadeya…⁷) pācattikaṃ /

1) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū), PrMoSū(Ma)K: om. 2) PrMoSū(P): dhammikānaṃ kammānaṃ, PrMoSū(Sa): dhārmike saṃghakaraṇīye, PrMoSū(Mū)B: dhārmikasamghakaraṇīye, PrMoSū(Mū)LC: dhārmike saṃghakaraṇīye, PrMoSū(Mū)HvH: ddhārmike saṃghakaraṇīye, PrMoSū(Ma)K: pūrvakarmāṇāṃ. 3) PrMoSū(Mū): add. bhikṣoṣ. 4) PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū)HvH: add. tataḡ. 5) PrMoSū(Ma)K: om. 6) PrMoSū(Ma)K: add. eṣo. 7) PrMoSū(P): khīyanadhammaṃ āpajjeyya, PrMoSū(Sa): kṣepadharmam āpadyeta, PrMoSū(Mū)B: abhiṣaktaḡ kupitaṣ caṇḡībhūto nāttamaṇā kṣepadharmam āpadyeta / āhara bhikṣoṣ chandaṃ na te dadāmīti, PrMoSū(Mū)HvH: abhiṣaktaḡ kupitaṣ caṇḡībhūto nāttamaṇāḡ kṣepadharmam āpadyeta / evaṃ cainaṃ vaded āhara bhikṣo chandan na te dadāmīti.

また、いかなる比丘といえども、審議（羯磨）によって委任（欲）を与えて、その後で比丘に対して悪意があり、敵意（瞋恚）によって怒った者、〔すなわち〕快く思っていない者が、このように誹謗するならば、〔すなわち〕「私の委任は与えられていない、私の委任は与えがたい。これらの諸審議は行われていない、これらの諸審議は行いがたい。私はこれらの諸審議の委任を与えない」と言うならば、波逸提である。

*89 T1426:552c27: 若比丘。與未受具戒人同屋。過三宿波夜提。cf. T1425:338c16-19.

*90 sahaḡāraśayyāṃ kalpeya. PED (s.v. seyyā) śayyāṃ kalpayati; lies down.

*91 T1426:552c28-553a01: 若比丘。與羯磨欲已。後瞋恨不喜作是言。我不與欲不好與。此羯磨不成就我不與此欲。波夜提。cf. T1425:338c16-19.

【44. 瞋恚驅出聚樂戒】*92

(44) yo¹⁾ puna bhikṣu bhikṣum evaṃ vadeya — ehi tvam²⁾ āyusman^{(3…grāmaṃ pinḍāya praviśiṣyāmaḥ…³⁾} / (4…ahaṃ ca te tatra kiṃcid dāpayiṣyaṃ⁴⁾ / (5…so tatra tasya kiñcid dāpayitvā vā adāpayitvā vā…⁵⁾ (6…paścād udyojanaprekṣo evaṃ vadeya⁶⁾ — gaccha tvam āyusman na me tvayā sārđhaṃ^{(7…phāsu bhavati kathāya vā niṣadyāya vā…⁷⁾}, ekasyaiva^{(8…mama phāsu bhavati kathāya vā niṣadyāya vā…⁸⁾} 9) / etad eva pratyayaṃ kṛtvā ananyam¹⁰⁾, (11…imaṃ tasya bhikṣusya udyojana…¹¹⁾pācattikaṃ /

1) PrMoSū(Mū)LC: *om.* 2) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): *om.* 3) PrMoSū(Sa): kulāny upasaṃkramiṣyāvas, PrMoSū(Mū)B: upasaṃkramāvas, PrMoSū(Mū)HvH: upasaṃkramiṣyāvaḥ. 4) PrMoSū(P): tassa dāpetvā vā adāpetvā vā, PrMoSū(Sa): tatra te dāpayiṣyāmi praṇiṭaṃ khādanīyabhojanīya, PrMoSū(Mū)B: tatra te dāpayiṣyāmi khādanīyabhojanīyaṃ yāvadāptaṃ, PrMoSū(Mū)LC: tatra te dāpayiṣyāmi praṇiṭaṃ khādanīyabhojanīyaṃ yāvad āpta, PrMoSū(Mū)HvH: tatra te dāpayiṣyāmi praṇiṭaṃ khādanīyaṃ bhojanīyaṃ yāvadāptaṃ. 5) PrMoSū(P): *om.*, PrMoSū(Sa): sa tasya bhikṣor adāpayitvā, PrMoSū(Mū)B: sa tasya dāpayitvā praṇiṭaṃ khādanīyabhojanīyaṃ yāvadāptaṃ, PrMoSū(Mū)HvH: sa tasyādāpayitvā. 6) PrMoSū(P): uyyojeyya, PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): tataḥ paścād evaṃ vaded. 7) PrMoSū(P): athā vā nisajjā vā phāsu hoti, PrMoSū(Sa): phāsa(ṃ) kathā vā niṣadyā vā, PrMoSū(Mū)B: tvayā sārđhaṃ sparso 'pi tu, PrMoSū(Mū)HvH: sparso bhavati kathāyā vā niṣadyāyā vā / api tv. 8) PrMoSū(P): me kathā vā nisajjā vā phāsu hoti⁷ ti, PrMoSū(Sa): me phāsaṃ kathā vā niṣadyā vā, PrMoSū(Mū)B: me sparso bhavati kathāyā vā niṣadyāyā vā, PrMoSū(Mū)HvH: *om.* 9) PrMoSū(Sa): *add.* udyojanaprekṣī kaścid eṣa bhikṣur muhūrtam apy udyojitaḥ syād, PrMoSū(Mū)B: udyojanaprekṣī kaścid eṣa bhikṣur udyojito bhaviṣyatīti, PrMoSū(Mū)HvH: eṣa bhikṣur udyojito bhaviṣyatīti. 10) PrMoSū(Mū): *om.* 11) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): *om.*

また、いかなる比丘といえども、比丘にこのように言うならば、[すなわち]「さあ、あなた、尊者よ、[我々は] 乞食のために村に入りましょう。私はあなたに対してそこである物を与えさせましょう」[というならば]、彼はそこで彼に対してある物を与えさせて、あるいは与えさせえないで、その後になって追放*93を望む者がこのように言うならば、[すなわち]「尊者よ、あなたは去りなさい。私にとって、あなたと一緒に会話することと同席することによって安穩は生じない。私一人だけで話し、坐ることによって安穩がある」と[言うならば]、まさにこのことを理由として、異なる[場合]は、これをその比丘の追放に関する波逸提という。

*92 T1426:553a02-05: 若比丘語比丘言。長老。共汝入聚落。到彼當與汝食。若自與若使人與。後欲驅故便言。汝去我共汝住不樂。我獨住樂。作是因緣不異。波夜提。cf. T1425:338 c16-19.

*93 udyojanam. 「出発する、追放する、排斥する」MW (s.v. ud-√yuj), NPED (s.v. uyyojana)

【45. 惡見違諫戒】*94

(45) yo puna bhikṣu bhikṣūn¹) evaṃ vadeya / tathāham āyuṣmanto bhagavatā dharmam deśitam ājānāmi yathā²) ye³) ime⁴) antarāyikā dharmā uktā⁵) bhagavatā⁶) tān pratisevato nālam antarāyāya / so bhikṣu bhikṣūhi evam asya⁷) vacanīyo — mā⁸) āyuṣmann evaṃ vada, ⁹) mā bhagavantam abhyācakṣa¹⁰...asatā durgrhītena...¹⁰) / (¹¹...antarāyikā evāyuṣman dharmāḥ...¹¹) (¹²...samānā antarāyikā dharmā...¹²) uktā bhagavatā, alaṃ ca punas tān¹³) pratiṣevato antarāyāya / ¹⁴) evaṃ ca so bhikṣu bhikṣūhi vucyamāno taṃ vastuṃ¹⁵) pratinissareya¹⁶) (¹⁷...ity etaṃ kuśalaṃ...¹⁷) / (¹⁸...no ca pratinissareya so bhikṣu bhikṣūhi yāvantrītyakaṃ samanugrāhitavyo samanubhāṣitavyo tasya vastusya pratinissargāya / yāvantrītyakaṃ samanugrāhiyamāno vā samanubhāṣiyamāno vā taṃ vastuṃ pratinissareya ity etaṃ kuśalaṃ...¹⁸) / no ca pratinissareya (¹⁹...so bhikṣuḥ samagreṇa saṃghena utkṣīpitavyo / imaṃ tasya bhikṣusya utkṣepaṇa...¹⁹) pācattikaṃ /

1) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū)B: *om.*, PrMoSū(Mū)HvH: bhikṣūṇām. 2) PrMoSū(Sa): *om.* 3) PrMoSū(Ma)K : *om.* 4) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): *om.* 5) PrMoSū(Sa): *om.* 6) PrMoSū(Sa): *om.* 7) PrMoSū(P): *assa*, PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū)B: *syād*, PrMoSū(Ma)K: *asyād*. 8) PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū)B: *add. tvam.* 9) PrMoSū(Sa): *add. tathāham bhagavato dharmam deśitam ājānāmi ye antarāyikā dharmās tāṃ pratiṣevato nālam antarāyāyeti*, PrMoSū(Mū)B: *add. tathāham bhagavato dharmam deśitam ājānāmi yathā ye antarāyikā dharmā uktā bhagavatā te ca pratisevyamānā nālam antarāyāya iti.* 10) PrMoSū(P): *na hi sādhu bhagavato abbhakkhānaṃ, na hi bhagavā evaṃ vadeyya*, PrMoSū(Sa): *mā bhagavantam abhyākhyāhi na sādhu bhagavato 'bhyākhyānaṃ bhavati na ca punar bhagavān evaṃ vaded*, PrMoSū(Mū): *na sādhu bhavati bhagavato 'bhyākhyānaṃ na ca punar bhagavān evam āha.* 11) PrMoSū(P): *anekapariyāyena āvuso*, PrMoSū(Sa): *anekaparyāyena bhagavatā antarāyikā dharmāḥ*, PrMoSū(Mū): *anekaparyāyena āyuṣmann antarāyikā dharmāḥ.* 12) PrMoSū(P): *antarāyikā dhammā*, PrMoSū(Mū)B: *santaḥ antarāyikā*, PrMoSū(Mū)LC: *santa āntarāyikā*, PrMoSū(Mū)HvH: *santo 'ntarāyikā.* 13) PrMoSū(Ma)K: *te aṃtarāyikā dharmā.* 14) PrMoSū(Sa): *niḥsrja tvam āyuṣmann idam evaṃrūpaṃ pāpakaṃ drṣṭigataṃ*, PrMoSū(Mū)B: *niḥsrja tvam āyuṣmann evaṃrūpaṃ pāpakaṃ drṣṭigataṃ*, PrMoSū(Mū)HvH: *niḥsrja tvam āyuṣmann idam evaṃrūpaṃ pāpakaṃ drṣṭigataṃ.* 15) PrMoSū(P): *om.* 16) PrMoSū(Ma)K: *samādāya pratigṛhyaṃ tiṣṭhe...* 17) PrMoSū(P): *om.* 18) PrMoSū(P): *so bhikkhu bhikkhūhi yāvatatiyaṃ samanubhāṣitabbo tassa paṭinissaggāya. yāvatatiyañce samanubhāṣiyamāno taṃ paṭinissajjeyya, icc'etaṃ kusalaṃ*, PrMoSū(Sa): *na cet pratinīḥsrjed dvir api trir api*

*94 T1426:553a06-11: 若比丘作是語長老。我知世尊說障道法。習此法不能障道諸比丘應諫言。長老。汝莫謗世尊。謗世尊者不善。世尊不作是語世尊說障道法實障道。汝捨此惡事。如是諫時。若堅持不捨。應第二第三諫。捨者善。若不捨。僧應作擧磨羯。是比丘波夜提。cf. T1425:338c16-19.

samanuśāsītavyas tasya vastunaḥ pratiniḥsargāya (dv)ir api trir api samanūśīyamāṇas tad vastu pratiniḥsṛjed ity evaṃ kuśalaṃ, PrMoSū(Mū): no cet pratiniḥsṛjed dvir api trir api samanuyoktavyaḥ samanūśāsītavyas tasya pratiniḥsargāya dvir api trir api samanuyujyamāṇaḥ samanūśīyamāṇas tad vastu pratiniḥsṛjed ity evaṃ kuśalaṃ. 19) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): om.

また、いかなる比丘といえども、比丘達にこのように〔誹謗して〕言うならば、〔すなわち〕「尊者達よ、そのように私は世尊によって法が説かれたことを知っている。世尊によって語られたこの障害法^{*95}は、それらを実践することによって障害となるには不十分である」〔というならば〕、その比丘は、比丘達によってこのように言われるべきである。「尊者よ、このように言うことのないように。その不正、誤解によって世尊を中傷するな^{*96}。尊者よ、他ならぬ〔これらの〕障害法は、世尊によって語られた障害法と同じである。そしてまた、それらを実践することによって障害となるには十分である」と。そして、このように比丘達によって言われる比丘が、その事柄を放棄するならば、それは正しい。しかし、放棄しないならば、その比丘は比丘達によって、その事柄を捨てるために、3度まで尋問され、勧告されるべきである。3度まで尋問され、勧告されながら、その事柄を放棄するならば、それは正しい。しかし、放棄しないならば、その比丘は和合サンガによって排除されるべきである。これをその比丘の排除(拳罪)^{*97}に関する波逸提という。

【46. 随擧比丘戒】^{*98}

(46) yo puna bhikṣur jānan (¹…bhikṣuṃ tathā utkṣiptaṃ samagreṇa saṃghena dharmeṇa vinayena yathāvādiṃ tathākāriṃ…¹) tāṃ pāpikāṃ²) drṣṭiṃ apratinissarantaṃ akṛtānudharmaṃ saṃbhuñjeya vā saṃvaseya vā saḥāgāraśāyāṃ vā kalpeya pācattikaṃ /

1) PrMoSū(P): tathāvādinā, PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): tathāvādiṇaṃ. 2) PrMoSū(P): om.

また、いかなる比丘といえども、そのようにして排除された比丘を、和合サンガによって、法によって、律によって、非難された通りのそのような行為であり、その悪意のある誤った見解を捨てていない、法に従う行為をしないと

^{*95} antarāyikā dharmāḥ. 「障道法」あるいは「障害法」。解脱の障害となる5つのもの；kaman-tarāyika, kilesantarāyika, vipākantarāyika, upavāntarāyika, āṇāvīttikamantarāyika. DBMT (s.v. antarāyika). cf. 青野 [2020:72 f.n. 56]

^{*96} 原文に「abhyācākṣa (MW s.v. abhi-√caks, abhy-ā-√caks)」とあるが、この語は「abhyācīkṣati (BHSD s.v.)」, 「abbhācikkhati (NPED s.v.)」の Hypersanskrit 形と見ることも可能であり、「誹謗、中傷」と訳す。

^{*97} utkṣepana. 漢訳では「拳罪」に相当する。NPED (s.v. ukkhepana) は “suspension (from the saṅgha), concerning suspension (from the saṅgha)” と説明する。cf. 青野 [2020:63-64], Nolot [1999:3]

^{*98} T1426:553a12-13: 若比丘。知比丘惡見不捨。僧如法如律作擧羯磨。未作如法如律。共食共同屋住波夜提。cf. T1425:338c16-19.

知りながら、共に食事をし、あるいは一緒に住み、同宿するならば、波逸提である。

【47. 隨擯沙弥戒】*99

(47) śramaṇuddeso pi ced¹⁾ evaṃ vadeya tathāham āyusmanto²⁾ bhagavatā dharmaṃ deśitam ājānāmi (3…yathā ye ime antarāyikā kāmā uktā bhagavatā…³⁾ tān pratisevato nālam antarāyāya / so śramaṇuddeso bhikṣūhi evam asya⁴⁾ vacaṇiyo — mā⁵⁾ āyusman cchramaṇuddeśa evaṃ vada⁶⁾, 7) mā bhagavantam abhyācakṣa⁸⁾ (9…asattā durgrhītena…⁹⁾ 10) / (11…antarāyikā evāyusman cchramaṇuddeśa kāmāḥ samānā antarāyikāḥ kāmā uktā bhagavatā…¹¹⁾ / (12…alaṃ ca punas tān pratisevato antarāyāya…¹²⁾ / 13) evaṃ ca so śramaṇuddeso bhikṣūhi vucyamāno (14…taṃ vastuṃ pratinissareya…¹⁴⁾ (15…ity etaṃ kuśalaṃ…¹⁵⁾ / (16…no ca pratinissareya so śramaṇuddeso bhikṣūhi yāvanṭṛīyakaṃ samanugrāhitavyo samanubhāṣitavyo tasya vastusya pratinissargāya yāvanṭṛīyakaṃ samanugrāhiyamāno vā samanubhāṣiyamāno vā taṃ vastuṃ pratinissareya ity etaṃ kuśalaṃ, no ca pratinissareya…¹⁶⁾ so śramaṇuddeso bhikṣūhi nāśayitavyo¹⁷⁾ — adyadagreṇa te āyusman śramaṇuddeśa na caiva so bhagavāms (18…tathāgato ’rhan samyaksambuddho śāstā vyapadīśitavyo…¹⁸⁾ / 19) (20…yaṃ pi ca dāni labhasi…²⁰⁾ bhikṣūhi sārddham (21…dvirātraṃ vā trirātraṃ vā…²¹⁾ sahaḡāraśayyāṃ 22) sāpi te adyadagreṇa²³⁾ nāsti / (24…gaccha naśya cala prapalāhi…²⁴⁾ / yo puna bhikṣur jānan tathānāśitaṃ śramaṇuddeśaṃ (25…yathāvādīṃ tathākāriṃ tām pāpikāṃ drṣṭim apratinissarantaṃ akṛtānudharmaṃ…²⁵⁾ (26…upasthāpeya vā upalāpeya vā sambhujeya vā saṃvaseya vā…²⁶⁾ 27) sahaḡāraśayyāṃ vā kalpeya pācattikaṃ /

1) PrMoSū(Ma)K: om. 2) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): om. 3) PrMoSū(P): yathā ye ’me antarāyikā dhammā vuttā Bhagavatā, PrMoSū(Sa): yat kāmāṃ, PrMoSū(Mū)B: yathā ye antarāyikā dharmā uktā bhagavatā, PrMoSū(Mū)LC: yathā ye āntarāyikāḥ kāmā uktā bhagavatā, PrMoSū(Mū)HvH: yathā ye ’ntarāyikāḥ kāmā uktā bhagavatā. 4) PrMoSū(P): assa, PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): syād, PrMoSū(Ma)K: asyād. 5) PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): add. tvam. 6) PrMoSū(P): avaca, PrMoSū(Mū): avacaḥ, PrMoSū(Ma)K: vadehi. 7) PrMoSū(Sa): add. tathāham bhagavato dharmaṃ deśitam ājānāmi yat kāmāṃ pratisevato nālam antarāyāyeti, PrMoSū(Mū)B: add. tathāham bhagavato dharmaṃ deśitam ājānāmi yathā ye antarāyikā dharmā uktā bhagavatā te ca pratisevyamānā nālam antarāyāyeti, PrMoSū(Mū)HvH: add. tathāham bhagavato dharmaṃ deśitam ājānāmi / yathā ye āntarāyikāḥ kāmā uktā bhagavatā te pratisevyamānā

*99 T1426:553a14-22: 若沙彌作是言。如來說姪欲是障道法。我知習姪欲不能障道。諸比丘應諫言。汝沙彌莫謗世尊。謗世尊者不善。世尊不作是語。世尊說姪欲實障道法汝捨此惡見。如是諫時。若堅持不捨。應第二第三諫。捨者善。若不捨應驅出言。汝從今已後。不應言佛是我師。亦不得共比丘三宿。汝去不得此中住若比丘知沙彌惡見不捨驅出。未作如法。誘喚畜養共食共住波夜提。cf. T1425:338c16-19.

nālam antarāyāyeti. 8) PrMoSū(P): abbhācikkhi, PrMoSū(Sa): vivada, PrMoSū(Mū)B: abhyācakṣuḥ, PrMoSū(Mū)LC: abhyācakṣu, PrMoSū(Mū)HvH: abhyācakṣva. 9) PrMoSū(P): na hi sādhu bhagavato abbhakkhānaṃ, PrMoSū(Sa): mā bhagavantam abhyākhyāhi na sādhu bhagavato 'bhyākhyānaṃ bhavati, PrMoSū(Mū): na sādhu bhavati bhagavato 'bhyākhyānan. 10) PrMoSū(P): *add.* na hi bhagavā evaṃ vadeyya, PrMoSū(Sa): *add.* na ca punar bhagavān evaṃ vaded, PrMoSū(Mū)B: *add.* na ca punar bhagavān evāha, PrMoSū(Mū)HvH: *add.* na ca punar bhagavān evaṃ āha. 11) PrMoSū(P): anekapariyāyena āvuso samañuddesa antarāyikā dhammā vuttā Bhagavatā, PrMoSū(Sa): anekaparyāyena bhagavatā antarāyikāh kāmāh samānā antarāyikā ity uktās, PrMoSū(Mū)B: anekaparyāyena śramaṇoddeśa antarāyikā dhamāh santaḥ antarāyikā evoktā bhagavatā, PrMoSū(Mū)LC: anekaparyāyena ya [.....] yikā kāmāh santa āntarāyikā evoktā bhagavatā, PrMoSū(Mū)HvH: anekaparyāyēṇāyusmaṃ cchramaṇoddeśa āntarāyikāh kāmāh santo 'ntarāyikā evoktā bhagavatā. 12) PrMoSū(Ma)K: alaṃ ca pu[na]++++[rāyi]kā kāmā pratiṣevato nālam aṃrtarāyik(ā)ye. 13) PrMoSū(Sa): *add.* niḥsra tvam śramaṇoddeśa idam evaṃrūpaṃ pāpakaṃ dṛṣṭigatam, PrMoSū(Mū)B: *add.* niḥsra tvam* śramaṇoddeśa evaṃrūpaṃ dṛṣṭigatam, PrMoSū(Mū)LC: *add.* niḥsra tvam āyusmaṃ cchramaṇoddeśa idam evaṃrūpaṃ pāpakaṃ dṛṣṭigatam, PrMoSū(Mū)HvH: *add.* niḥsra tvam āyusmaṃ cchramaṇoddeśadam evaṃrūpaṃ pāpakaṃ dṛṣṭigatam. 14) PrMoSū(P): tath'eva paggaṇheyya, PrMoSū(Sa): tat pāpakaṃ dṛṣṭigatam pratiniḥsrjed, PrMoSū(Mū)B: tad vastu cet pratiniḥsrjed, PrMoSū(Mū)HvH: tad vastu pratiniḥsrjed. 15) PrMoSū(P): *om.* 16) PrMoSū(P): *om.*, PrMoSū(Sa): dvir api trir api samanūsāsītavyas tasya vastunaḥ pratiniḥsargāya sa yāva(d) dvir api trir api samanūsīyamāna(h) sacet pratiniḥsrjed ity evaṃ kuśalaṃ no cet pratiniḥsrjet, PrMoSū(Mū): dvir api trir api samanuyoktavyaḥ samanūsāsītavyas tasya vastunaḥ pratiniḥsargāya dvir api trir api samanuyujyamānaḥ samanūsīyamānas tad vastu pratiniḥsrjed ity evaṃ kuśalaṃ no cet pratiniḥsrjet. 17) PrMoSū(P): bhikkhūhi evaṃ'assa vacanīyo, PrMoSū(Sa): evaṃ syād vacanīyaḥ, PrMoSū(Mū): idaṃ syād vacanīyo. 18) PrMoSū(P): sathā apadisitabbo, PrMoSū(Sa): śāstā vyapadeṣṭavyo, PrMoSū(Mū)B: tathāgataḥ arhan samyaksambuddhaḥ śāstā, PrMoSū(Mū)HvH: bhagavāṃs tathāgato 'rhat samyaksambuddhaḥ śāstā vyapadeṣṭavyo. 19) PrMoSū(Sa): *add.* nāpy anye bhikṣavaḥ samanubandhitavyā, PrMoSū(Mū)B: *add.* evaṃrūpasyānyatamānyatmasya brahmacāriṇaḥ pṛṣṭataḥ mā samanubadhāna, PrMoSū(Mū)LC: *add.* nāpy anyatamānyatamo vijño gurusthānīyaḥ sabrahmacārī pṛṣṭataḥ pṛṣṭataḥ samanubaddhavyo, PrMoSū(Mū)HvH: *add.* nāpy anyatamo vijño gurusthānīyaḥ sabrahmacārī pṛṣṭataḥ pṛṣṭataḥ samanubaddhavyo. 20) PrMoSū(P): yaṃ'pi c' aññe samañuddesā labhanti, PrMoSū(Sa): yāṃ apy anye śramaṇodd(eś)ā labhante, PrMoSū(Mū)B: yāvad apy anye śramaṇoddeśāḥ labhante, PrMoSū(Mū)LC: yad apy anye śramaṇoddeśā labhante, PrMoSū(Mū)HvH: yāṃ apy anye śramaṇoddeśā labhante, PrMoSū(Ma)K: yaṃ pi anye śramaṇoddeśa labhanti. 21) PrMoSū(P): dvirattarattam, PrMoSū(Sa): dvirātraṃ, PrMoSū(Mū): dvirātraparamaṃ, PrMoSū(Ma)K: uttari dvirātra s trirātraparamaṃ. 22) PrMoSū(Mū)HvH: *add.* kalpayituṃ, PrMoSū(Ma)K: *add.* kalpituṃ. 23) PrMoSū(P): *om.* 24) PrMoSū(P): cara pire vinassā'ti, PrMoSū(Sa): cara pareṇa mohapuraṣa naśya tvam na tvayeha vastavyam iti, PrMoSū(Mū)B: nāsti cara careṇa mohapuraṣa naśyati,

PrMoSū(Mū)HvH: cara pareṇa mohapurusa naśya tvaṃ, PrMoSū(Ma)K: gaccha naśya cara palāva. 25) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): om. 26) PrMoSū(P): upalāpeyya vā upaṭṭhāpeyya vā saṃbhūñjeyya vā, PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū)HvH: upasthāpayed vā upalādayed vā, PrMoSū(Mū)B: upasthāpayed vā upalālayed vā. 27) PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): add. tena vā sārđhaṃ.

また、沙弥*100もまたこのように〔誹謗して〕言うならば、〔すなわち〕「尊者達よ、そのように私は世尊によって欲が説かれたことを知っている。世尊によって語られたこの障害となる欲は、それらを実践することによって障害となるには不十分である」〔というならば〕、沙弥は比丘達によって次のように言われるべきである。「尊者、沙弥よ、このように言うことのないように。その不正、誤解によって世尊を中傷するな、尊者よ、他ならぬ〔この〕障害となる欲は、世尊によって語られた障害となる欲と同じである。そしてまた、それらを実践することによって障害となるには十分である」と。そして、このように比丘達によって言われた沙弥が、その事柄を放棄するならば、それは正しい。しかし、放棄しないならば、その沙弥は比丘達によって、その事柄を捨てるために、3度まで尋問され、勧告されるべきである。3度まで尋問され、勧告されながら、その事柄を放棄するならば、それは正しい。しかし、放棄しないならば、その沙弥は比丘達によって追放されるべきである*101。「尊者、沙弥よ、今後あなたを世尊・如来・応供・正等覚者・師と称するべきではない。今後、〔あなたが〕比丘達と共に、二晩、三晩、同宿を得るところのそのこともまた、今後あなたにはない。去りなさい、出て行きなさい、出発しなさい、逃げ出しなさい」と〔言われるだろう〕。また、いかなる比丘といえども、そのようにして追放された沙弥を、非難された通りのそのような行為であり、その悪意のある誤った見解を捨てていない、法に従う行為をしないと知りながら、奉仕させ、あるいは談話し、共に食事をし、あるいは一緒に住み、同宿するならば、波逸提である。

【48. 不染壞著新衣戒】*102

(48) navacīvaralābhina bhikṣuṇā trayāṇāṃ durvaṇṇikaraṇānāṃ anyatarānyataraṃ¹⁾ durvaṇṇikaraṇaṃ ādayitavyaṃ²⁾ — (3…nīlaṃ vā kardamaṃ vā kālaśyāmaṃ vā…³⁾ / tato ca⁴⁾ bhikṣur anādāya⁵⁾ navaṃ cīvaraṃ paribhūñjeya pācattikaṃ /

1) PrMoSū(Sa): add. navasya. 2) PrMoSū(Mū)LC: om. 3) PrMoSū(P): nīlaṃ vā kaddamaṃ vā kālasāmaṃ vā, PrMoSū(Sa): nīlaṃ vā kardamo vā kāḍisāmo vā, PrMoSū(Mū)B: nīlo vā

*100 śramaṇuddeso. BHSD (s.v. śramaṇoddeśa) では “a subordinate of a (Buddhist) monk”, śramaṇera 「沙弥」と同義であるとする。

*101 nāśayitavyo. √naś of the Caus. で「消滅させる、移す、追放する」を意味する語である。PED (s.v. nāsana, nāseti) cf. Nolot[1999:58-69] s.v. nāsana.

*102 T1426:553a23-24: 若比丘。得新衣當三種壞色。若一一壞色青黑木蘭。若不壞色受用者。波夜提。cf. T1425:338c16-19.

lohito vā pīto vā, PrMoSū(Mū)HvH: nilaṃ vā kardamaṃ vā kāṣāyaṃ vā. 4) PrMoSū(P): ce, PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): ced. 5) PrMoSū(P): *add.* tiṇṇaṃ dubbaṇṇakaraṇānaṃ aññataraṃ dubbaṇṇakaraṇaṃ, PrMoSū(Sa): *add.* trayāṇāṃ durvarṇikaraṇānāṃ anyatamānyatamaṃ durvarṇikaraṇaṃ, PrMoSū(Mū)B: trayāṇāṃ durvarṇikaraṇānāṃ anyatamānyatamaṃ durvarṇikaraṇaṃ nilaṃ vā lohitaṃ vā pītaṃ vā, PrMoSū(Mū)HvH: trayāṇāṃ durvarṇikaraṇānāṃ anyatamānyatamaṃ durvarṇikaraṇaṃ nilaṃ vā kardamaṃ vā kāṣāyaṃ vā.

新しい衣を得る比丘は、三種の壊色のうちのどれか一つの壊色を受け取るべきである。[三色とは] 青、泥（木蘭）色、あるいは黒褐色である。その場合に、比丘が受け取らないで、新しい衣を使用するならば、波逸提である。

【49. 捉宝戒】*103

(49) yo puna bhikṣur anyatra adhyārāme vā adhyāvasathe vā ratanaṃ vā ratanasammatam vā ¹⁾ udgrhṇeya vā udgrhṇāpeya vā, pācattikaṃ / ākāmṣamāṇena²⁾ bhikṣuṇā³⁾ ratanaṃ vā ratanasammatam vā adhyārāme vā adhyāvasathe vā ⁴⁾ udgrhṇitavyaṃ vā udgrhṇāpayitavyaṃ vā ⁵⁾ — yasya bhaviṣyati so hariṣyati / ⁶⁾ etad eva pratyayaṃ kṛtvā, ananyam⁶⁾ / ⁷⁾ iyam atra sāmīcī⁷⁾ /

1) PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): *add.* svastam. 2) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): *om.*
3) PrMoSū(Sa): *om.* 4) PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū)HvH: *add.* evaṃ cittaena. 5) PrMoSū(P): *add.* nikkipitabbaṃ 6) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa), PrMoSū(Mū): *om.* 7) PrMoSū(Ma)K: anāpattiḥ.

また、いかなる比丘といえども、僧園内*104、あるいは宿舍内*105を除いて、宝、あるいは宝と認められるものを手に取り、あるいは手に取らせるならば、波逸提である。[すなわち] 宝、あるいは宝と認められるものを求めている比丘が、僧園内あるいは宿舍内において、手に取るべきであり、手に取らせるべきである。「[将来] その人のものとなるだろうところの、その者が所有するだろう」と[言うならば]、まさにこのことを理由として、異なる[場合]は、ここでは、これが正しい。

【50. 半月洗浴戒】*106

(50) ¹⁾ anvardhamāsaṃ snānam²⁾ (3…uktaṃ bhagavatā³⁾ / anyatra samaye ⁴⁾ pācattikaṃ / tatrāyaṃ samayo — ⁵⁾ dvyardho māso śeṣo grīṣmāṇāṃ, varṣāṇāṃ ca purimo māso ity ete aḍḍhātīyamāsāḥ⁵⁾, paridāhakālasamayo⁶⁾,

*103 T1426:553a25-26: 若比丘。僧住處內寶若名寶。若自取若使人取。除內取爲主來求者與。波夜提。cf. T1425:338c16-19.

*104 adhyārāme. NPED (s.v. ajjhārāma)

*105 adhyāvasathe. NPED (s.v. ajjhāvasatha)

*106 T1426:553a27-29: 若比丘減半月浴。除餘時波夜提。餘時者。春後一月半。夏初一月。此二月半。是熱時病時風時雨時作時行時。cf. T1425:338c16-19.

adhvānagamanakālasamayo⁷⁾, (⁹…gilānasamayo, karmasamayo, (⁸…vātasamayo, vṛṣṭisamayo…⁸)…⁹) / ayam atra samayo /

1) PrMoSū(P): *add.* yo pana bhikkhu orena. 2) PrMoSū(P): nahāyeyya, PrMoSū(Sa): snātram, PrMoSū(Mū)B: snāyād, PrMoSū(Mū)HvH: anānam(sic!). 3) PrMoSū(P), PrMoSū(Sa): *om.*, PrMoSū(Mū)B: bhagavatā deṣitam. 4) PrMoSū(Sa): *add.* tadatīkrāmataḥ, PrMoSū(Mū)B: *add.* tadatīkramāt, PrMoSū(Mū)HvH: tam atīkramato. 5) PrMoSū(P): diyaḍḍho māso seso gimhānan'ti, vassānassa paṭhamo māso icc'ete aḍḍhateyyamāsā, PrMoSū(Sa): sārḍho māsaḥ ṣeṣo grīṣmāṇāṃ pūvo māso varṣāṇāṃ etau sārḍhau dvau māsau, PrMoSū(Mū)B: adhyardho māsaḥ ṣeṣo grīṣmāṇāṃ pūvo māso varṣāṇāṃ ity ete ardhatrīyamāsā, PrMoSū(Mū)HvH: adhyarddho māsaḥ ṣeṣo grīṣmāṇāṃ pūrvvakaś ca varṣāṇāṃ ity ete 'rddhatrīyā māsaḥ. 6) PrMoSū(P): uṇhasamayo, pariḷāhasamayo, PrMoSū(Sa): paridāghasamayaḥ avaśiṣṭaṃ, PrMoSū(Mū)B: uṣṇasamayo 'vaśiṣṭaṃ, PrMoSū(Mū)HvH: paridāhasamayo vaśiṣṭo, PrMoSū(Ma)K: paridāghajālasamayo. 7) PrMoSū(P): addhānagamanasamayo, PrMoSū(Sa): 'dhvānamārgasamayo, PrMoSū(Mū)B: *om.*, PrMoSū(Mū)HvH: dhvasamayo. 8) PrMoSū(P): vātavṛṣṭhisamayo, PrMoSū(Mū)B: vṛṣṭisamayo vātavrṣṭhisamayo. 9) PrMoSū(Ma)K: evaṃ glānaḥ evaṃ karmaḥ evaṃ vāto evaṃ vṛṣṭi evaṃ adhvāna evaṃ gamanasamayo.

世尊によって述べられた [通り], 半月ごとの沐浴は, 正時を除いて, 波逸提である。その場合にこの「正時」とは, 夏季の残り一ヶ月半と雨季の最初の月というこれら二ヶ月半, 猛暑の時, 旅路にある時, 病気の時, 作務の時, 風の時, 雨の時である。ここでは, これが「正時」である。

// uddānaṃ // (41) jyotiḥ (42) sahaḡāra (43) cchandaṃ (44) udyojaṇā (45-47) trayo 'ntarāyikā (48) akṛtakalpaṃ (49) ratanaṃ (50) snānena // pañcamo vargaḥ //

【撰頌】 41. 火, 42. 同宿, 43. 委任, 44. 追放, 45-47. 三つの障害, 48. 規程通りに作られずに, 49. 宝, 50. 沐浴によって。第5集

【参考文献】

- Karashima, Seishi. 2002. “Miscellaneous notes on Middle Indic words.” *Annual Report of the International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University* 5: 147-152.
- . 2007. “Miscellaneous notes on Middle Indic words (2)” *Annual Report of the International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University* 10: 81-91.
- . 2012. *Die Abhisamācārikā Dharmāḥ Verhaltensregeln für buddhistische Mönche der Mahāsāṃghika-Lokottaravādins*. Bibliotheca Philologica et Philosophica Buddhica 13-1, 2, 3. The International Research Institute for Advanced Buddhology, Soka University.
- . 2014. “The Language of the Abhisamācārikā Dharmāḥ - The Oldest Buddhist Hybrid Sanskrit Text.” *Annual Report of the International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University* 17: 77-88.
- Nolot, Édith. 1996. “Studies in Vinaya technical terms I-III.” *Journal of the Pali Text Society* 22: 73-149.
- . 1999. “Studies in Vinaya technical terms IV-X.” *Journal of the Pali Text Society* 25: 1-111.
- Oguibénine, Boris. 2002. Materials for the Lexicography of Buddhist Sanskrit of the *Mahāsāṃghika-Lokottaravādins* (I), 『中央学術研究所紀要』31: 44-92.
- . 2005. Materials for the Lexicography of Buddhist Sanskrit of the *Mahāsāṃghika-Lokottaravādins* (II), 『中央学術研究所紀要』34: 45-70.
- . 2016. *A Descriptive Grammar of Buddhist Sanskrit: the language of the textual tradition of the Mahāsāṃghika-Lokottaravādins*. Journal of Indo-European Studies Monograph 64, Institute for the Study of Man, Washington DC.
- Prebish, Charles S. 1996. *Buddhist Monastic Discipline: The Sanskrit Prātimokṣa Sūtras of the Mahāsāṃghikas and Mūlasarvāstivādins*. Motilal Banarsidass Pub.
- Singh, Sanghasena. 1983. *Sphuṭārthā Śrīghanācārasaṃgrahaṭīkā*. 2nd ed., Tibetan Sanskrit Works Series 24, K. P. Jayaswal Research Institute, Patna.
- 青野道彦 2020 『パーリ仏教戒律文献における懲罰儀礼の研究』山喜房佛書林。
- 佐々木閑 1999 『出家とはなにか』大蔵出版。
- 佐藤密雄 1963 『原始佛教教団の研究』山喜房佛書林。
- 平川彰 1993a 『二百五十戒の研究Ⅰ』平川彰著作集第14巻, 春秋社。
- . 1993b 『二百五十戒の研究Ⅱ』平川彰著作集第15巻, 春秋社。
- . 1994 『二百五十戒の研究Ⅲ』平川彰著作集第16巻, 春秋社。
- . 1995 『二百五十戒の研究Ⅳ』平川彰著作集第17巻, 春秋社。

- 吉澤秀知 2012 「Bhikṣuṇī-Vinaya 訳註 (1)」『多田孝文教授古稀記念論文集 東洋の慈悲と智慧』山喜房佛書林, (147)-(160).
- . 2015a 「Bhikṣuṇī-Vinaya 訳註 (2)」『総合佛教研究所年報』37: (87)-(110).
- . 2015b 「Bhikṣuṇī-Vinaya 訳註 (4)」『小澤憲珠頌寿記念論文集 大乘仏教と浄土教』ノンブル社, (724)115-(704)135.
- . 2016 「Bhikṣuṇī-Vinaya 訳註 (3)」『総合佛教研究所年報』38: 229-254.
- . 2019 「大衆部説出世部律『Prātimokṣa-Sūtra』訳註 (1) — 戒序・四波羅夷法・十三僧殘法 —」『総合佛教研究所年報』41: (101)-(138).
- . 2020 「大衆部説出世部律『Prātimokṣa-Sūtra』訳註 (2) — 二不定法・三十捨墮法 —」『総合佛教研究所年報』42: (83)-(114).

(大正大学非常勤講師)